

第2回大会

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

報告書



- 開催日 平成28年10月15日（土）～16日（日）
- 会場 茨城大学 水戸キャンパス（茨城県水戸市文京2-1-1）
- 主催 茨城県教育委員会，茨城大学社会連携センター，茨城県生涯学習・社会教育研究会
- 主管 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会
- 後援 福島県教育委員会，栃木県教育委員会，群馬県教育委員会，埼玉県教育委員会，千葉県教育委員会，神奈川県教育委員会，国立青少年教育振興機構，茨城県社会教育委員連絡協議会，茨城県公民館連絡協議会
- 協力 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター
茨城県教育庁社会教育主事会

目 次

1	はじめに	1
2	大会テーマ及び日程	2
3	事業の実施体制	3
4	大会参加者集約結果	4
5	アンケート集計結果	5
6	参加大学生からの感想	30
7	事例発表協議メモ集約結果	33
8	メッセージボード集約結果	43
9	成果と課題	47

< 参 考 >

•	第2回大会チラシ	48
•	事例発表者一覧	53
•	実行委員会委員等一覧	55
•	新聞記事	57

1 はじめに

昨年に引き続き第2回大会が盛大に開催できましたこと、事例発表者、参加者等関係者の皆様に心より感謝いたします。

昨年度末にまとめられた中教審答申を受けた「次世代の学校・地域」創生プランでは、地方創生に向けた学校と地域の連携・協働の在り方が取り上げられました。また、今年8月に取りまとめられた「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」では、「社会に開かれた教育課程」の実現が目標となり、学校教育においても社会教育との連携が重要テーマとなっています。まさに、社会教育にとって追い風となっている今、社会教育実践者にとってもここが勝負所であると思います。

昨年の第1回交流会では、多くの実践報告と交流があり、参加者の間で次のような思いが共有されたと感じています。

第1点は、少子化、高齢化、過疎化を嘆いてばかりいるのはやめよう。いずれにしても、人口が増えることはまず絶対にはないだろうし、高齢化が止まることもあり得ない。また、過疎化で止まって限界集落の地域がそう急に賑わいを取り戻すことも難しいだろう。私達は、この何十年もの間、いったい何のために生涯学習を推進してきたのか。何のために学んできたのか。今私たちが生きているこの困難な時代と社会のために学んできたのではなかったか。改めてそのことに気づき、学びの力を確認したこと。

第2点は、今、必要なのは学びながら仲間をつくり、行動し、地域や社会に発信していくことではないか。それはいつか世の中を少しずついい方向につくり変えていく力になるはずであるということ。

第3点は、発信すれば、必ず自分達と同じ思いの仲間が届き、思いや願いが共有されること、つまり私達はひとりではないということ。

第4点は、とにかく学び、考え、共に行動しよう、ただし、それにはそのための「場」が必要であること。

西日本には既に場ができております。特に、昨年ご講演頂いた三浦清一郎先生を中心とするお仲間の方々が九州は福岡を中心に既に30有余年の歴史を刻み、大きなネットワークを作り上げ、実績を積んできています。今、わが国における地方創世という大きな課題をかけ声倒れに終わらせないためにも、必要なのは学びと実践の仲間づくりであり、そのネットワークであります。それには中心となる場と問題意識を共有する仲間から成る組織が必要です。茨城県が、その拠点となれるよう今後も継続開催に向けて準備を進めて参りますので、今後とも関東近県関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

最期になりましたが、開催に当たり、様々な形でご支援ご協力下さった茨城県教育委員会、茨城大学、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、独立行政法人国立青少年教育振興機構、公益財団日本教育公務員弘済会茨城県支部等の関係者の方々に心からの感謝を申し上げます。



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会

実行委員長 菊池 龍三郎（茨城大学名誉教授）

2 大会テーマ及び日程

第2回大会テーマ

『今こそ社会教育の底力を！』

「学びを通しての地域活性化」の面で成果をあげている各都県の実践を発表し、話し合いを通して経験・知識・技術を学び合う「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」を開催し、関東圏域での地域づくりに関わる実践研究交流の場づくりの拠点となるとともに、対話・交流を通して地域課題解決の糸口となることをめざします。

大会日程

第1日目 10月15日(土)

12:30 13:00 13:30 13:50 14:35 14:45 15:30 15:50 16:35 16:45 17:30 18:15 20:15

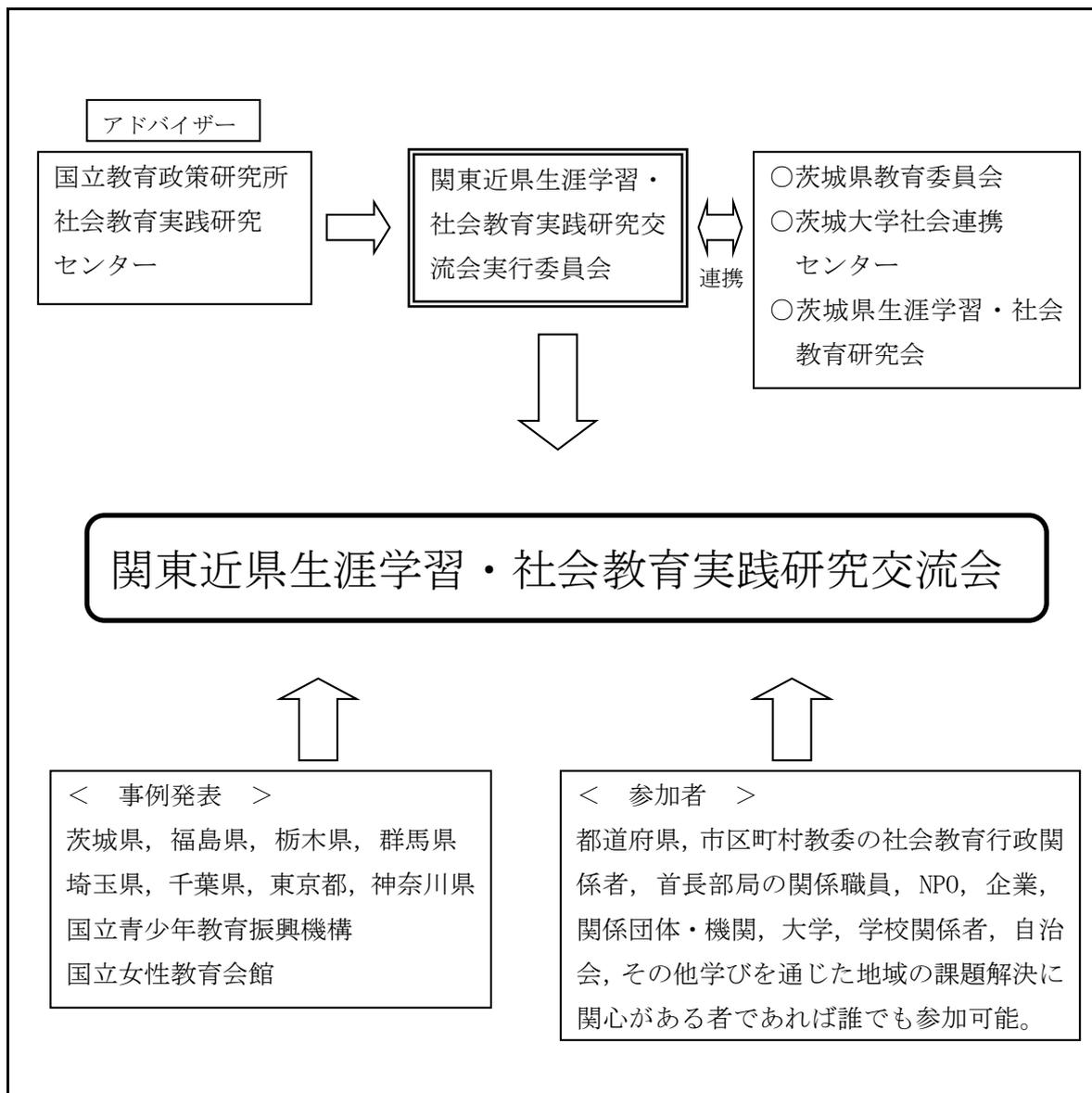
受付	オープニング	移動・休憩	事例発表 ①	移動・休憩	事例発表 ②	移動・休憩	事例発表 ③	移動・休憩	事例発表 ④	移動・休憩	交流会
教育学部 B棟	D棟 201		203 ～ 208		203 ～ 208		203 ～ 208		203 ～ 208		生協食堂

第2日目 10月16日(日)

8:45 9:30 11:00 11:30 12:00

受付	特別講演 『社会教育に問う！ 今、社会教育にできることとは』 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター長 千葉敬愛短期大学 学長 明石 要一 先生	(関係者間での 出会いと対話)	クロージング・ トークセッション コーディネーター 茨城大学教育学部特任准教授 長谷川 幸介 登壇者 茨城大学名誉教授 菊池龍三郎 NPO 法人ひと・まちなっとわー く理事長 池田 馨
教育学部 B棟	D棟 201	D棟 201	D棟 201

3 事業の実施体制



4 第2回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会参加者集約結果

(単位：人)

都県	第1日目	第2日目	合計
福島県	9	5	14
茨城県	267	152	419
栃木県	11	7	18
群馬県	5	6	11
埼玉県	11	2	13
千葉県	10	2	12
東京都	11	5	16
神奈川県	2	0	2
長野県	1	1	2
静岡県	1	1	2
福岡県	3	3	6
合計	331	184	515

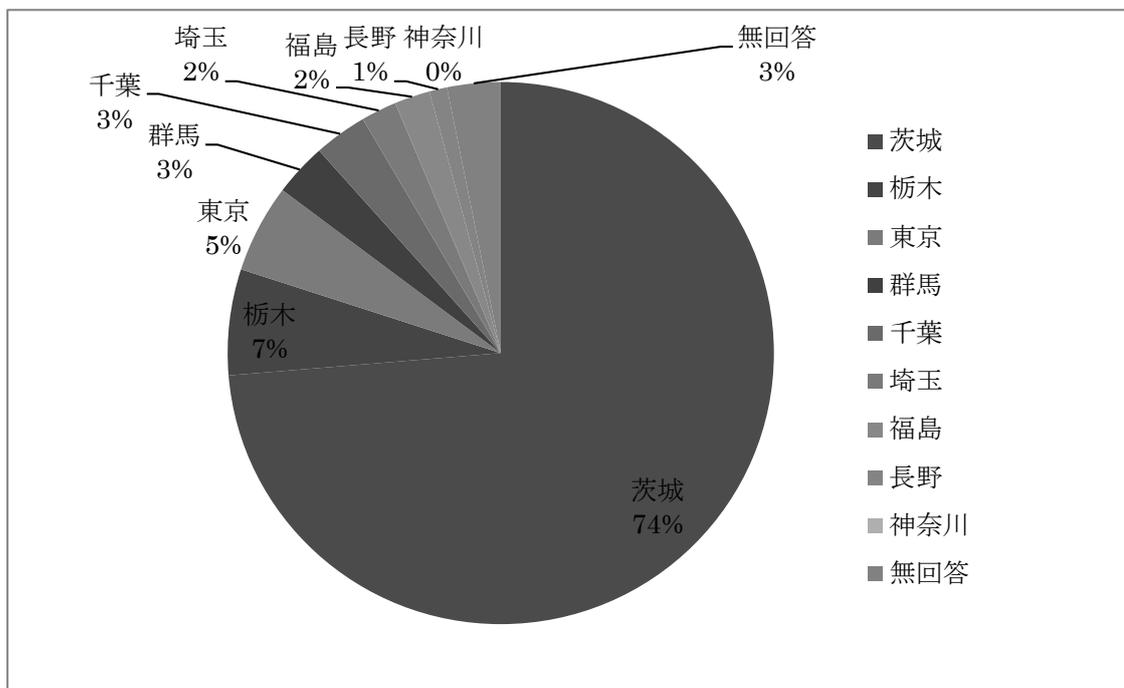
【参考】

	第1日目	第2日目	合計
第1回大会	314	168	482

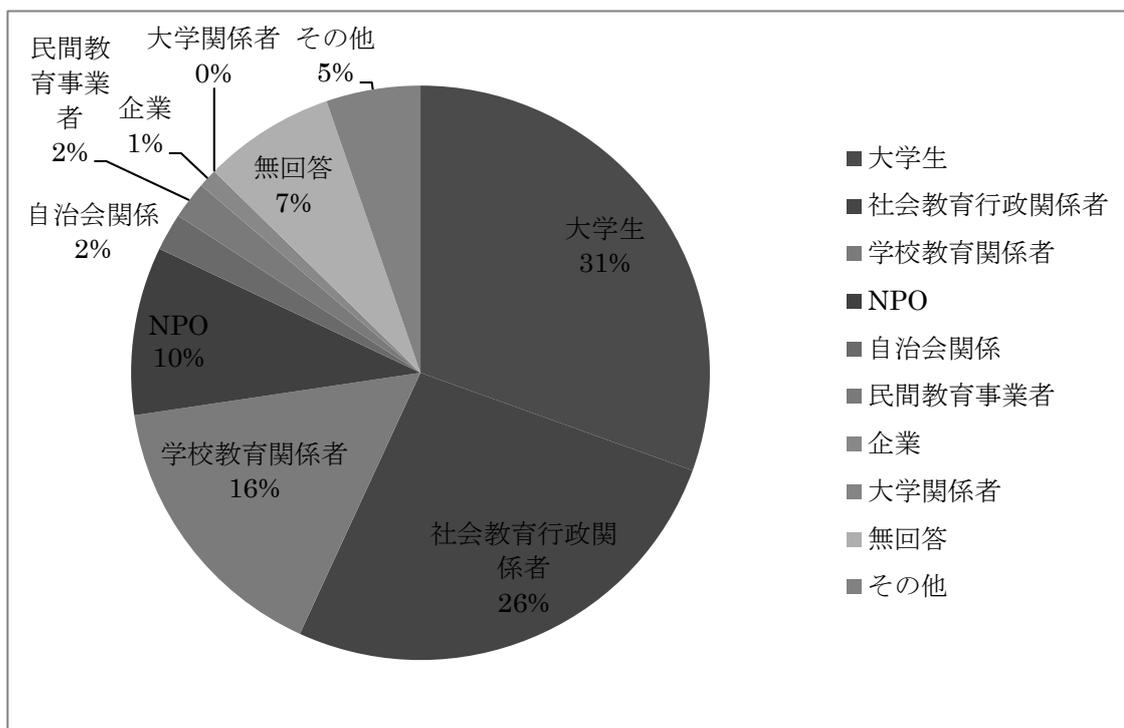
5 第2回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会アンケート集計結果

アンケート回収数95名

(1) どちらから参加されましたか。



(2) 所属を教えてください。



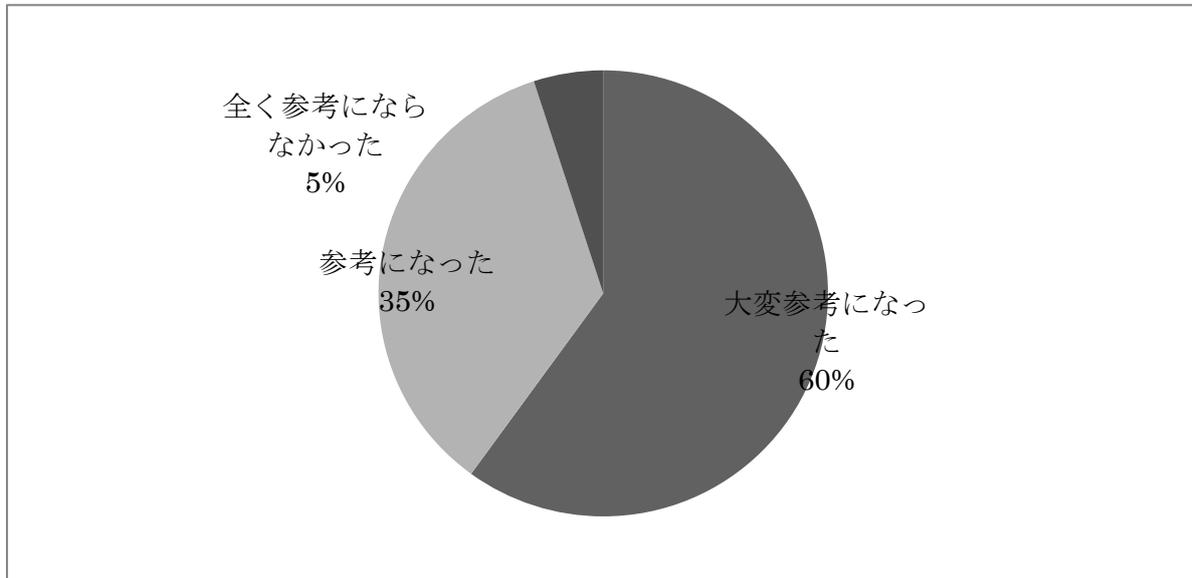
(3) 事例発表

①13:50～14:35

A 学校・家庭・地域の連携

こうすればできる！学校と地域をつなげるひと工夫

～地域連携重点推進モデル事業の実践から～ 栃木県 市貝町立市貝小学校



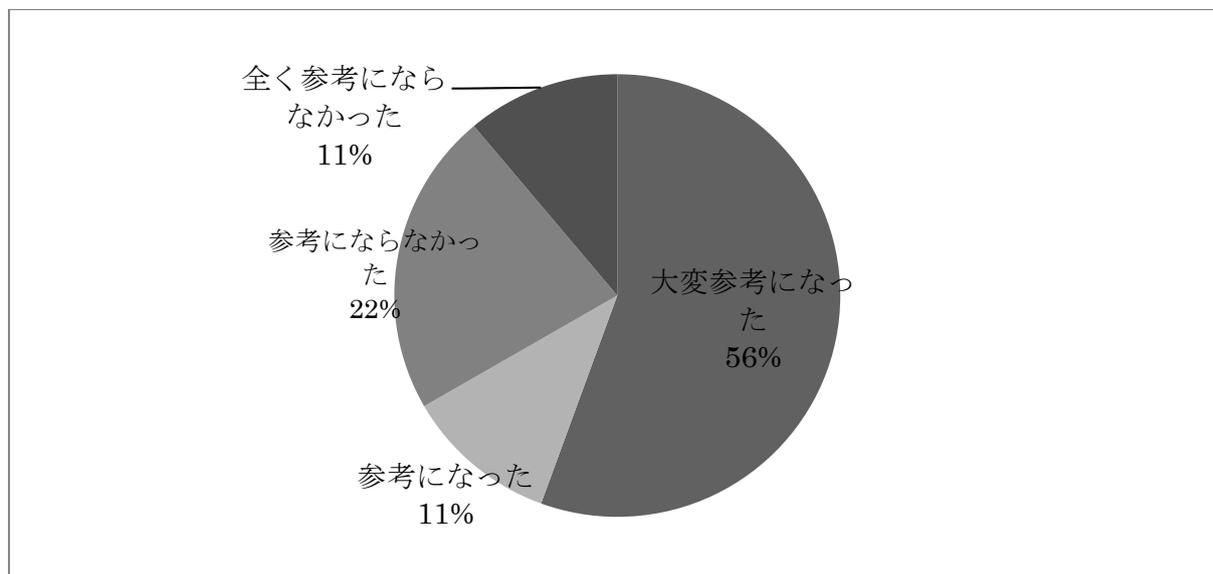
- ・コーディネーター役が団体の力をかりて継続している点が参考になりました。
- ・色々な話が聞けてよかった。
- ・おもしろかったです。
- ・地域により、役職名が若干異なるところがあるのではないかと思います。名称が共通言語として理解できるような補足説明などがあるとさらによいと感じました。
- ・地域連携は「子どもと向き合う時間」の確保ではなく「生きる力（コミュニケーション）をつける時間」の確保。
- ・地域学校共同活動に向けた取組として、先進的なものと感じた。
- ・継続の大切さを知った。地域から学校への取組、先に年間予定に入れておくことなどが参考になった。
- ・学校と家庭の連携・協働の体制づくりの道筋が参考になりました。
- ・地域コーディネーターの具体的な活動、役割も知りたかった。
- ・日本一影のうすい村というのをはじめて知った。
- ・もう少しゆっくり話してほしかった。
- ・子どもがへると教員や保護者もへるという状態でボランティアをするのはすごいと思った。

B 家庭教育支援

就学前教育における家庭教育支援について

～保健福祉部局，企業，地域と連携した家庭教育支援基盤の形成～

茨城県 坂東市教育委員会生涯学習課



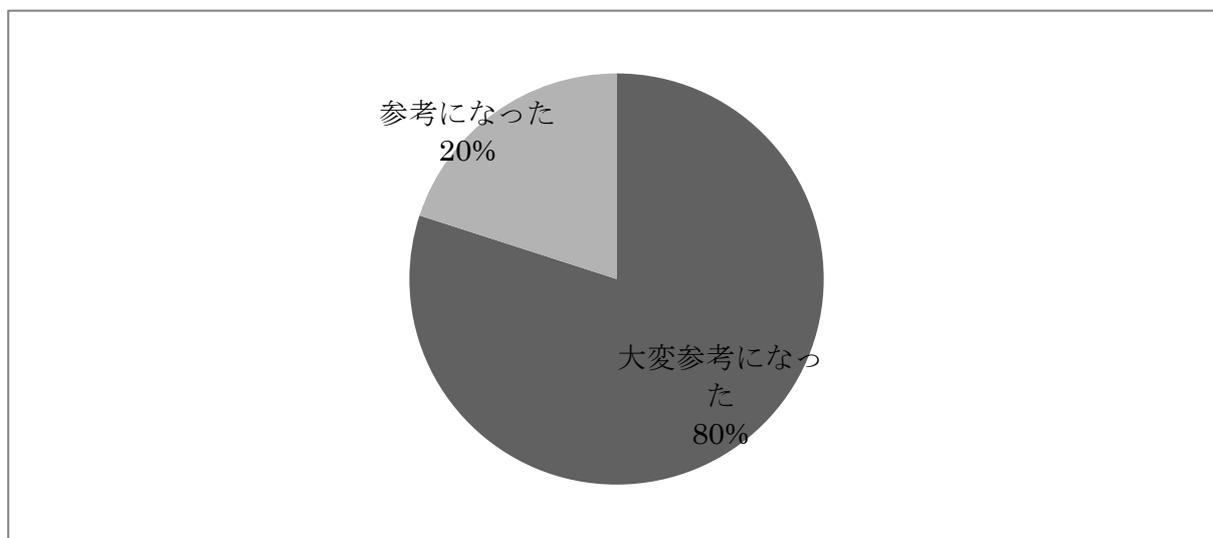
- ・ノウハウについて具体的で参考になった。現場でのプレーヤー的な社教主事のあり方は新鮮だった。
- ・事業の継続性，系統性，広がりといった視点が弱かった。
- ・脳科学の視点からの話は，公的な立場にある者が，「教育」として，講話することは問題があると思います。早急に再検討されることをおすすめします。
- ・NPOなどの要請を支援するしくみなどが行政にあり，市民と行政が街づくりや生涯学習などに同じ方向を向いていることが分かった。

C 地域課題の解決に向けた取組

茨城県立茨城東高等学校「We are 潤沼っ子！」のECO活動

～学び×地元×つながり×広がり～

茨城県 茨城県立茨城東高等学校生徒会



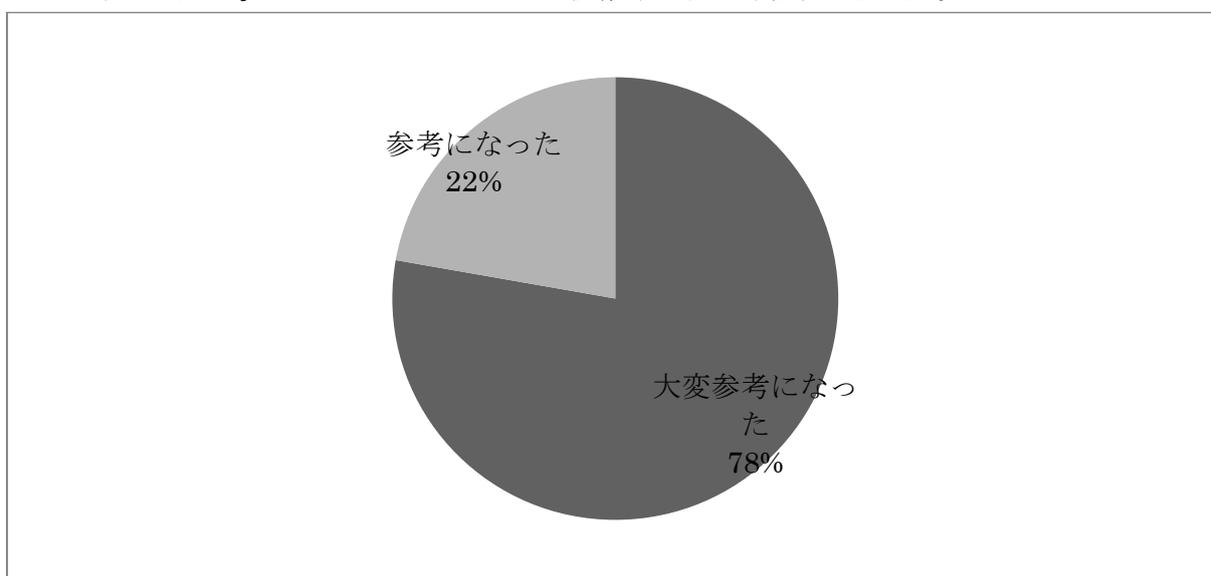
- ・高校生が堂々と発表していて良かった。
- ・高校生ということで参加者が多く会場が狭く感じました。
- ・協議の時間が短かった。するどい意見や質問が出されたため、時間があれば、もう少し、発展したのではないかと。
- ・生徒と先生方の努力がよく伝わってきました。
- ・高校生とは思えない位、しっかりした発表でした。
- ・良かったです。
- ・アクリルたわしの材料の毛糸が決まっていることを知った。
- ・高校生が意識を高く活動している姿に感動した。

D 地域課題の解決に向けた取組

地域活性化事業スポーツプロジェクト

～県西地区にJリーグチームを～

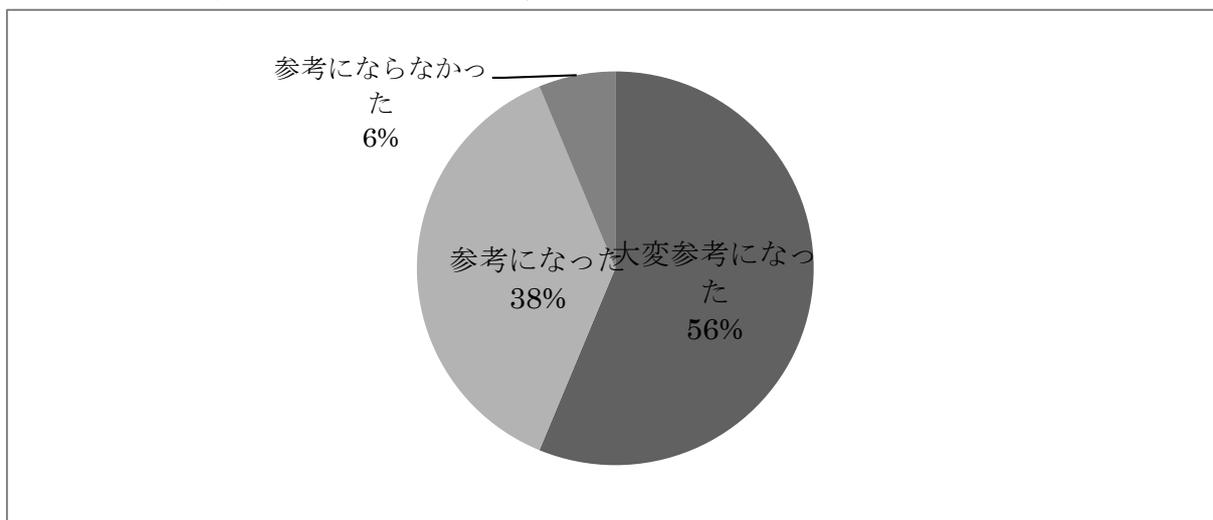
茨城県 特定非営利活動法人境スポーツクラブ



- ・地域愛に根ざしたリーダーの現出が地域を明るくする。
- ・貴重なお話を聞くことができ、とても良かったです。お話の時間も質問の時間も短く少し残念でした。
- ・地元と似ているまちおこしの方法だったので、とても興味深かったです。
- ・スポーツの組織を作るまでには、大変な苦労があったのではと思った。取組が大切ということが分かった。
- ・私の住んでいる地元の近くだったので、色々と知ることができました。
- ・応援してます。
- ・多くの人の協力があって、成り立っていることが分かった。
- ・郵便局が情報を発信するなど、相互作用が働いている所がよかった。
- ・境町がんばってください。

E 青少年教育

つながる！ひろがる！たかまる!! いばらきASEイニシアチブ
～よりよい集団・組織づくりは、関係づくりからはじまる～
茨城県 茨城県立さしま少年自然の家



- ・実践的な講義内容で、とても参考になりました。
- ・様々な体験活動法があるがASEの特徴をくわしく説明すればより良かった。
- ・ASEにとっても興味をもちました。ぜひ、研修を受けてファシリテーターになりたいです。
- ・指導者のスタンスがとてもよいと感じた。
- ・やったことを振り返るということを実際にやっていることを知れてよかったです。
- ・ASEを取り入れた研修に参加したい。また、教員や高校生会の研修に取り入れたい。
- ・アイスブレイクとASEについての区別がついた。
- ・人間関係を築く事の工夫がわかった。
- ・詳しい説明があり分かりやすかった。
- ・ASEについてはじめて知った。興味がわいた。
- ・熱心さが伝わってきた。

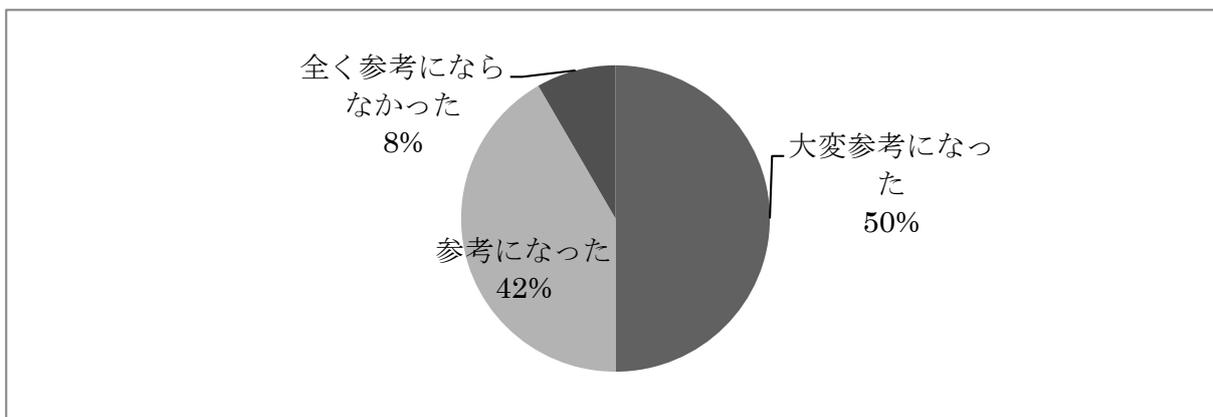


②14:45～15:30

A 学校・家庭・地域の連携

地域とともに伸びる学校をめざして
～学校から地域へ はじめの一步～

茨城県 笠間市立南小学校

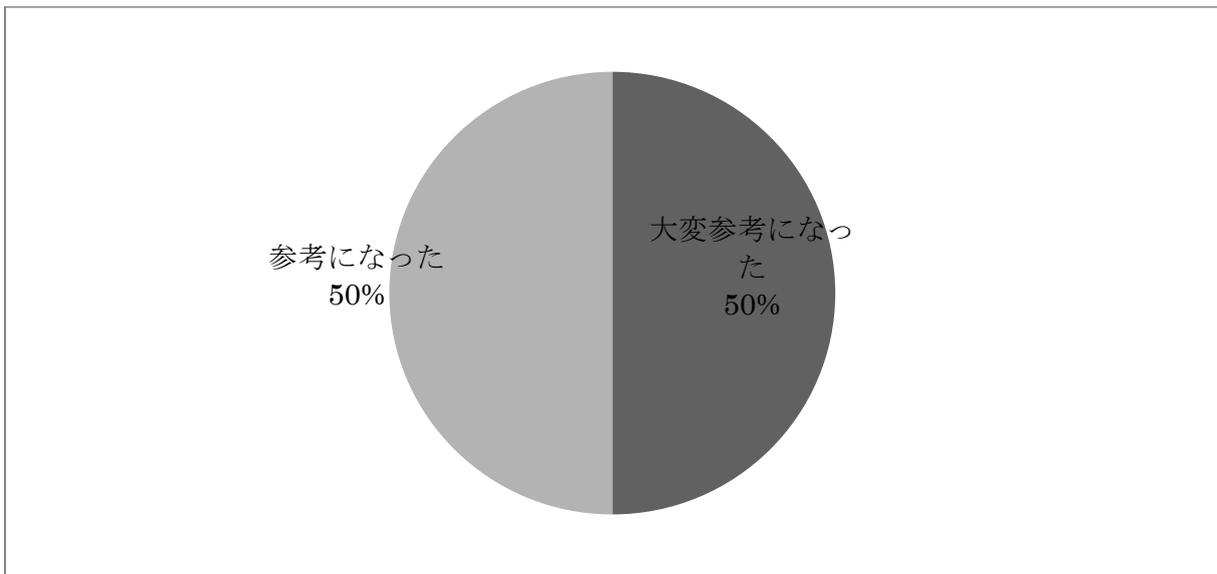


- ・ A E Tや企業と連携しているところが大変参考になりました。
- ・「学校から地域へ」という新しい考えを提案していただき、今後自分がどんなことを取り組めるか考えたい。
- ・良かったです。
- ・学校等地域のことだったので、とても親近感があり、聞きやすかった。全体的に内容が濃く理解しやすかった。
- ・地域と連携して、活動できるってすごいなって思いました。
- ・カルチャーセンター化しているだけで、そこに住民の自立や学校とのビジョンの共有というようなことが見えなかった。
- ・地域から学校への取組だけでなく、学校から地域への取組が参考になった。
- ・地域ボランティアとしている視点に疑問を感じる。時数や教科扱いに難が見られる。自己肯定感を育む活動としては、素晴らしい。
- ・地域と学校が協力していることが伝わった。

B 家庭教育支援

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の取組

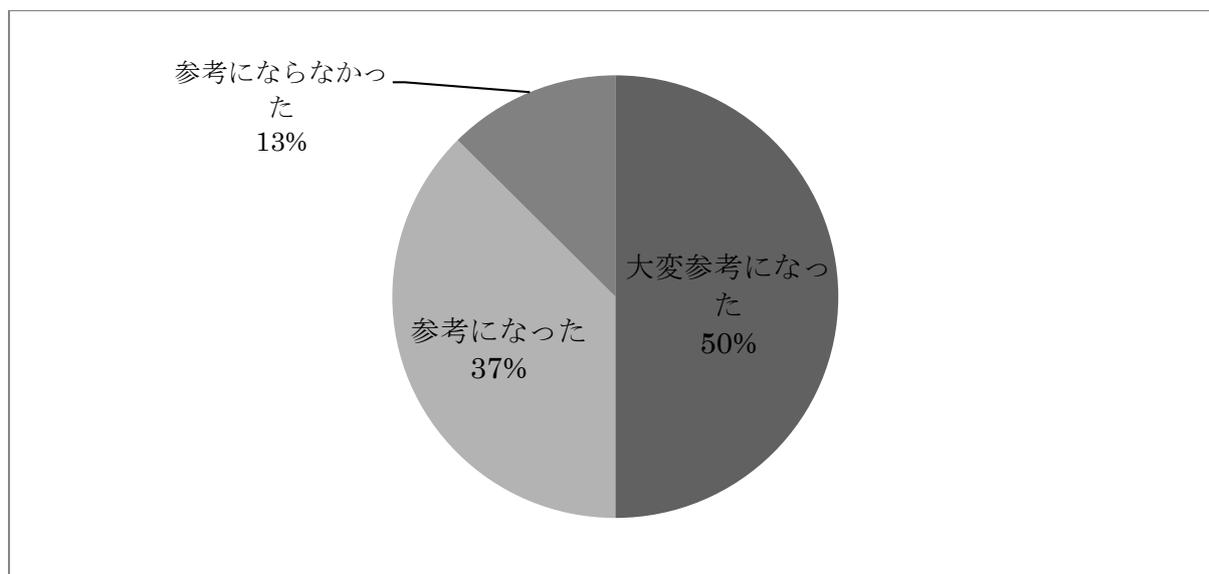
栃木県 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会



- ・子育てから人づくり、地域づくりまで、しっかりしたビジョンのもとに家庭教育支援を行っている様子が参考になりました。
- ・県全域で支部活動をされていることが素晴らしい。

C 地域課題の解決に向けた取組

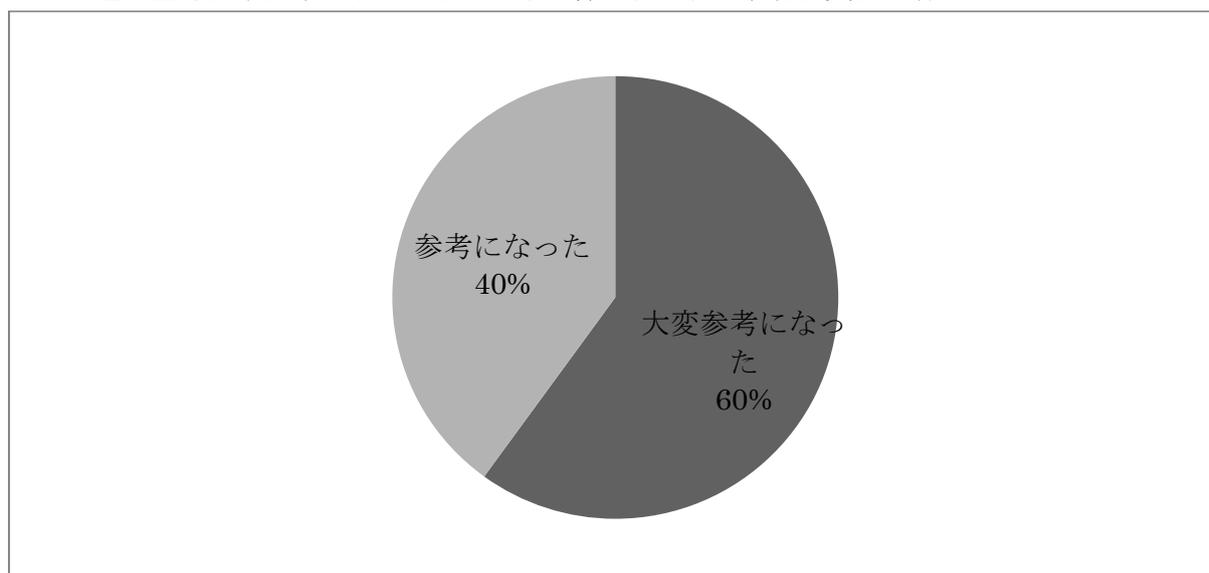
独自の民営化制度に基づく公民館市民カレッジの受託について
千葉県 我孫子市公民館 NPO 法人ふれあい塾あびこ



- ・元気な高齢者が活躍できる社会づくりが大切と感じる。
- ・「独自の民営化」の効果が見えづらい市政・まちづくりのレベルでの社会教育へ位置づけが不明。
- ・講演などを行政が企画運営する際に、父親の参加や事業の継続性など多くの課題があるが、行政ができることを自覚し取り組んでいることが分かった。

D 地域課題の解決に向けた取組

今こそ、地域に青少年の力を
～池ノ上青少年会館の取組から～ 東京都 世田谷区教育委員会事務局



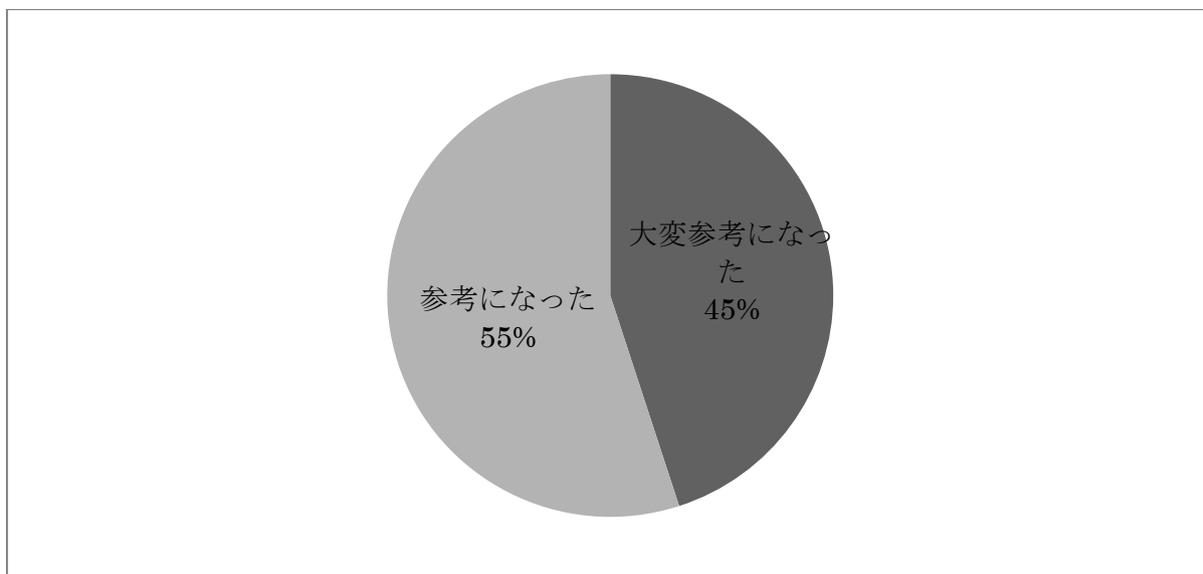
- ・青少年のパワーを引き出す戦術が展開されていて大きな期待がもてる。
- ・都市部らしい取組であったが、地域への広がりという視点が弱かった。
- ・共感できました。

E 青少年教育

セルフディスカバリーキャンプ

～自然体験を通じてネット依存解消を図る支援プログラムについて～

群馬県 国立赤城青少年交流の家



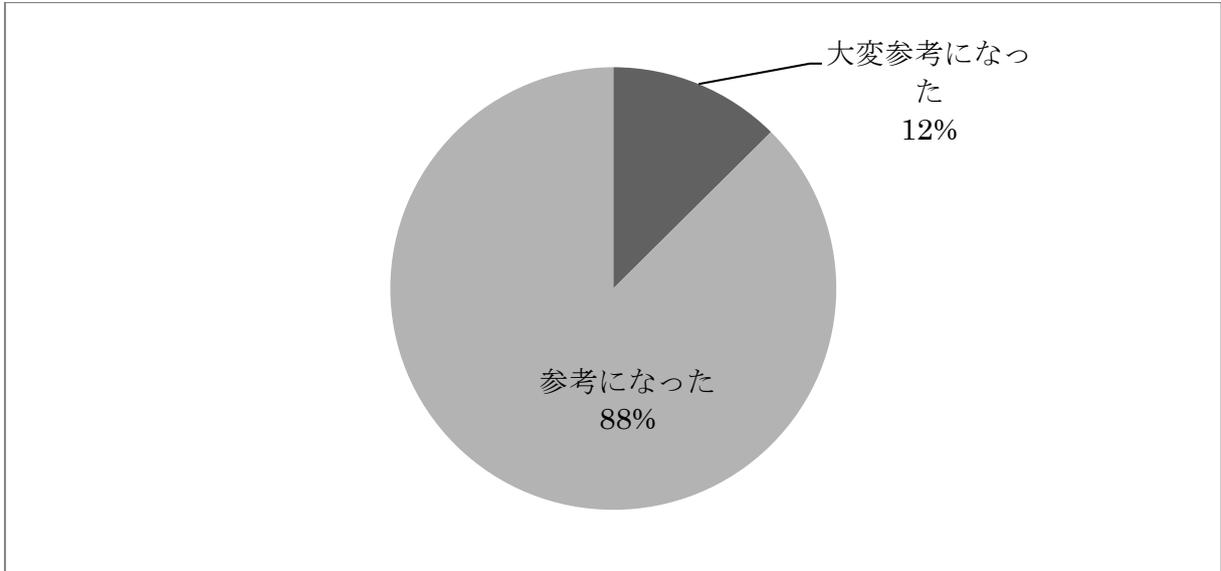
- ・スマホ依存は今後も問題となっていくので、代わりになる行動を考えることができた。
- ・内容がとても参考になりました。
- ・国立同士の機関連携は分かったが、民間の取組が分かればよりよい。
- ・体験・経験した子どもたちの今後の気がなりました。また、保護者の方の意識の変化や子どもたちとの関係に変化はあったのかを考えました。
- ・教育と医療の連携という現代的な課題だと思いました。
- ・委託を受けたプログラムのため、容易に他で実践することは難しいかと思いますが、他でも取り入れることができる内容への言及があるとさらによいと感じました。
- ・普通の子ども向けキャンプとは違った内容で、とても勉強になりました。
- ・健康的な生活に戻すという点ではよいと思った。自分の生活を見直す機会としてはよい。
- ・資料がもっとほしかった。
- ・ネット依存の人に対してこのような体験の場を設けているのがとてもいいなと思いました。
- ・衣装や福祉との連携も考えてみたい。
- ・ネット依存から離れさせるためのプログラムのその後が気になった。
- ・参考になりました。
- ・スライドと説明が早く、メモしきれない点も多かった。キャンプの日程表と合わせての説明だったので、内容は詳しく分かって良かった。
- ・認知行動療法で、暇になったときの行動を変えて生活を変えるのはすごいと思った。
- ・難しさがよく分かった。

③15:50～16:35

A 学校・家庭・地域の連携

学校・家庭・地域の連携協力による学力向上推進事業

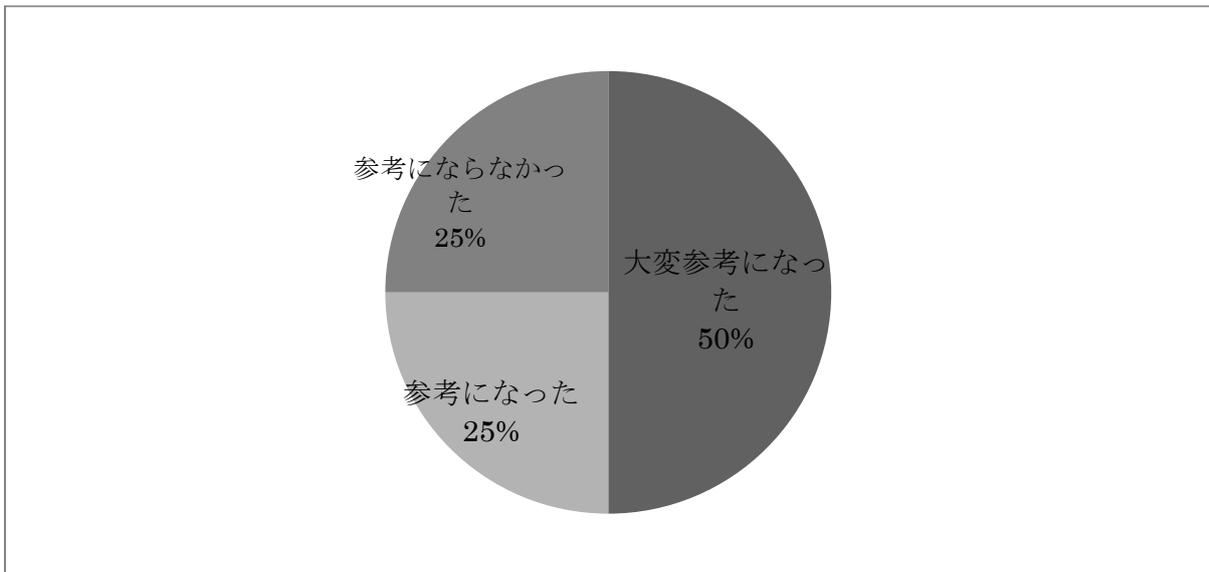
～地域運営委員会による「学力アップ大作戦」～ 群馬県 高崎市教育委員会学校教育課



- ・良かったです。
- ・学者連携。
- ・自然体として取り組んでいたことは評価できた。社会教育行政との連携があるとさらによいと思った。
- ・参考になりました。

B 家庭教育支援

家庭教育を支援する「親育を考える会」の取組 千葉県 親育を考える会

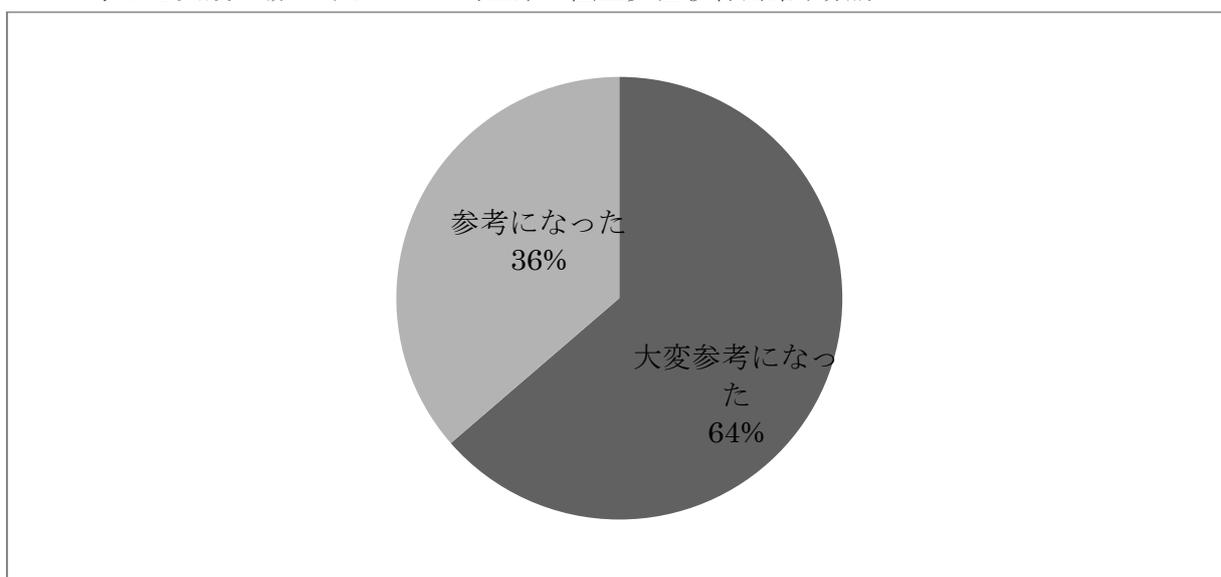


- ・親として、子どもと接するためにどうしたらいいのか考える時間になった。
- ・実際に親と関わった支援があるとよいと思いました。
- ・教育としての必要性については理解・実感がありますが、具体的な取組やその成果や困難さ組織作りなど参考となる情報がほしかった。
- ・本当に参加してもらいたい家庭には、なかなか来てもらえない事が現状なので、待っているだけでなく、出向くことが大切だと感じました。
- ・現在は様々な問題点を是正するために親のあり方を見直す状況にあるというのは、その通りだと思う。
- ・親育の大切さについて理解した。組織的取組の重要性を知った。
- ・貧困家庭の増加と家庭教育の大切さに改めて考えさせられました。
- ・家庭教育支援より学校支援の色合いが強いと感じた。家庭への具体的なアプローチが見えればよかった。

C 地域課題の解決に向けた取組

男女共同参画推進フォーラム

～学びと実践の場づくり～ 埼玉県 国立女性教育会館事業課



- ・男女が生活の中で矛盾していること。そのためにより良い暮らしができる方法を考える意見がたくさん聞けた。
- ・ジェンダーの問題を社会に照らし合わせ、様々な話が聞けてよかった。
- ・付箋を使用した協議だったので、一緒の班の方と話し合う時間が持てなかったのは残念でした。
- ・学校教育の課題を知ることができました。
- ・男女共同参画についての理解が深まった。女性への支援がもっと必要だと思っていたが、男性への理解を深め、対応することが大事だと思った。
- ・男女共同参画について、もっとたくさんの方に理解していただけると良いと思う。地道な活動が必要だと感じた。
- ・発表者の内容が半分ワークショップだったが、もっと研修会を実施するにあたってのコツや課

題などを聞きたかった。

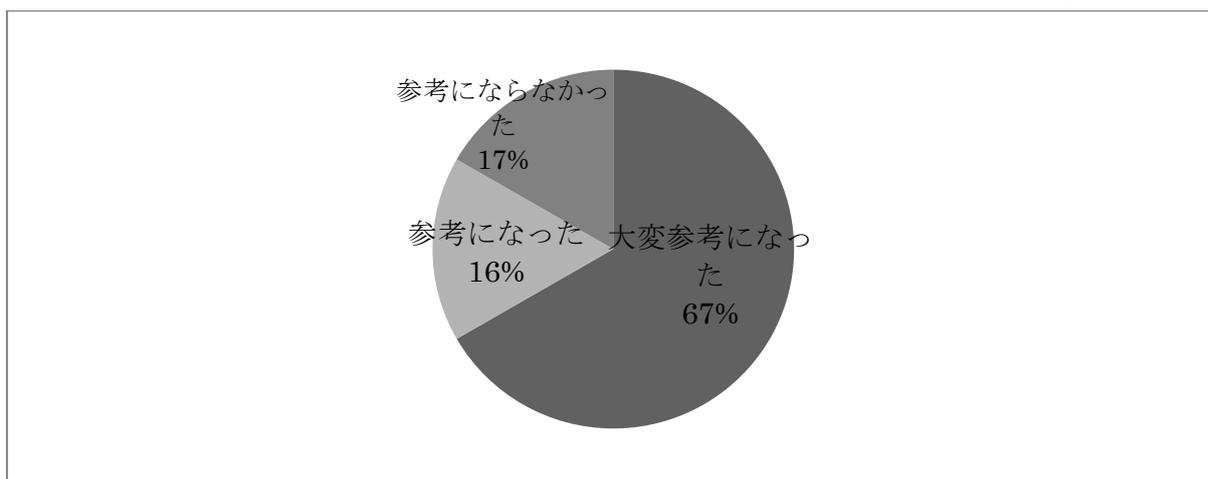
- ・男女共同参画について考えるとき、「男性」が「女性」がではなく、一人の人間としてとらえるべきということが分かった。
- ・男女参画について初めてまじめに考えるきっかけをいただきました。

D 地域課題の解決に向けた取組

DAISY ってなんだろう？

～一人ひとりのニーズにあった学習支援のために～

神奈川県 特定非営利活動法人やまゆり 認定 NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会



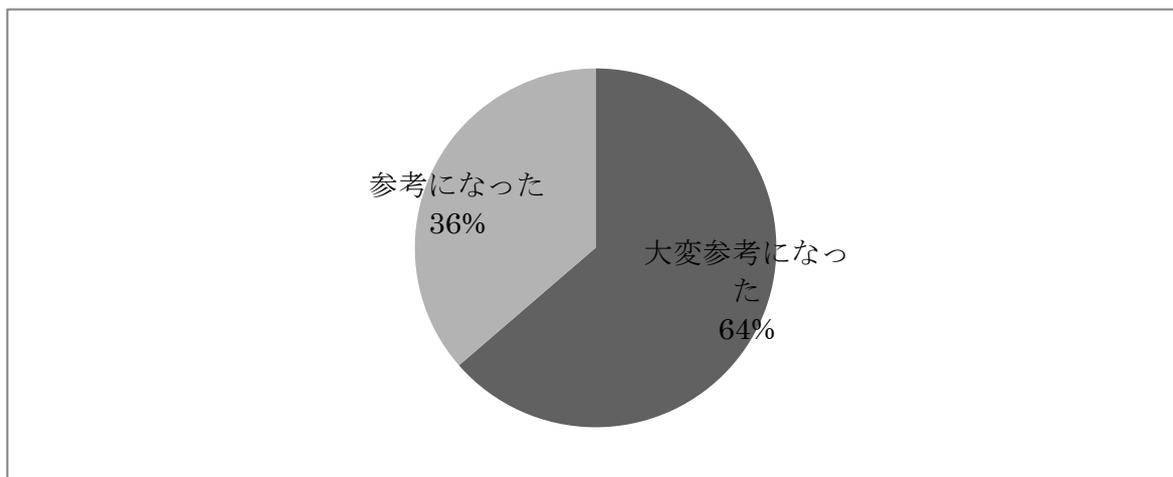
- ・中間支援組織の取組が興味深かった。
- ・分かりやすかった。
- ・デイジー教科書は従来の教科書より分かりやすかった。ディスクレシアという言葉を知った。

E 青少年教育

子供の防災力アップを目指して（平成 28 年度教育事業 チャレンジ・ジオキャンプ）

～地域の教育資源（環境や人）を活用し、地域との連携を図る事業展開～

福島県 国立磐梯青少年交流の家



- ・とても分かりやすい内容でよかったです。
- ・何故その事業を始めたのかが重要（説明の中に加えるべき。）
- ・目標がしっかりしていてすばらしい。
- ・長期活動，事前準備とか大変と感じました。
- ・12泊13日という長いプログラムであるのに，とても内容が濃く，すごく参考になるものだと思います。
- ・参考にして，私も子どもたちにとって，ハードなキャンプを実施したい。
- ・12泊13日ととても長く驚いた。
- ・青少年教育の基本に立ち戻る必要性を改めて感じました。
- ・長期としての魅力がある。

④16:45～17:30

A 学校・家庭・地域の連携

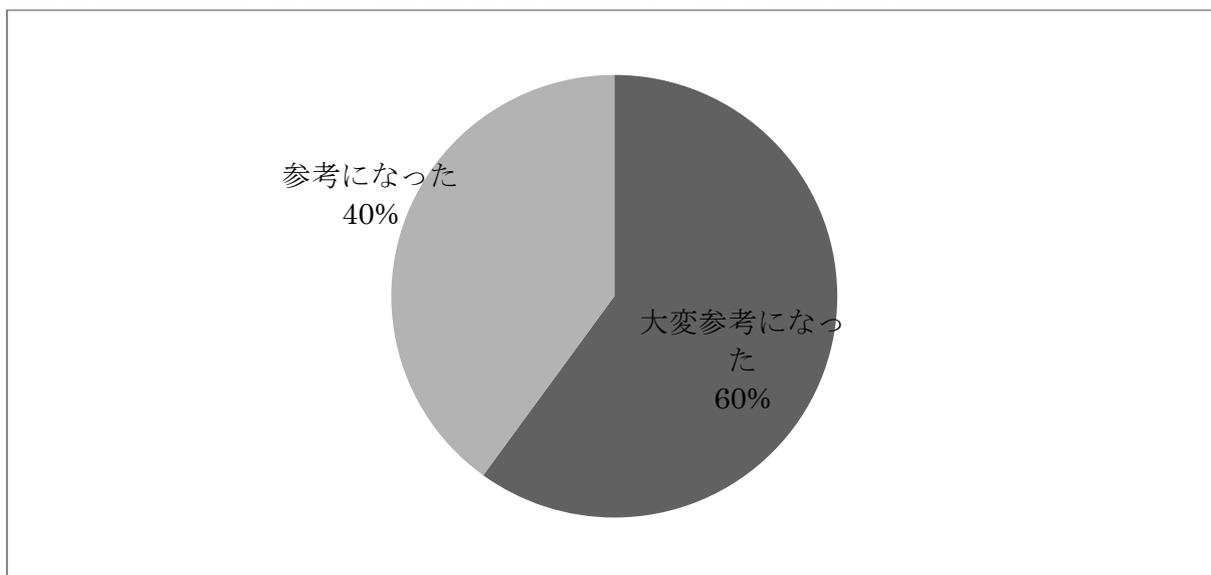
元気な学校をつくる朝霞二小「学校応援団」

～楽しく 無理なく 身近なことから～

埼玉県

朝霞市立朝霞第二小学校

学校応援団コーディネーター

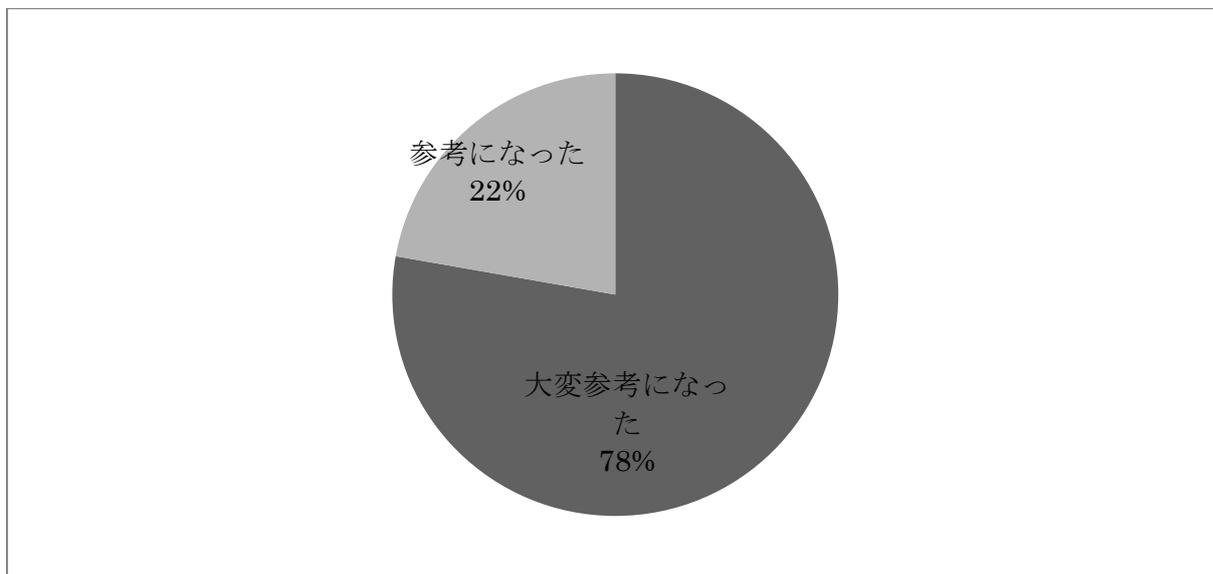


- ・コーディネーターの重要さに改めて気付かされました。
- ・学校応援団コーディネーターの方が校長先生の意向を大切にして活動されていることがとてもすごいと思いました。
- ・学校，PTA，地域のボランティアの3者がよく機能していると感じた。校長の考えを聞き，事業に配慮するなど大変だと感じた。
- ・学校応援団の組織作りの詳細を知りたかった。コーディネーターの存在，働きがすばらしい。

B 家庭教育支援

地域での学びの場づくり

～家庭教育学級をはじめとする多様な取組～ 埼玉県 NPO 法人子育てサポーター・チャオ



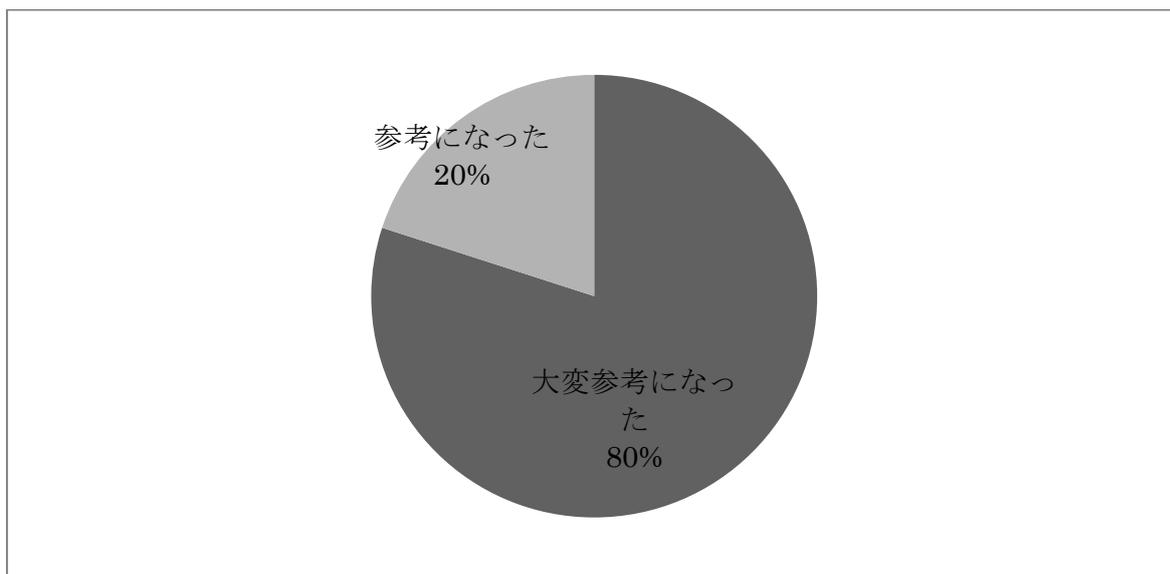
- ・若い人の挑戦意欲に大いに期待しています。
- ・活動の活発さに驚きました。
- ・子どものこともとても考えてくれているなど感じました。このような学びの場は広げてほしいなど思いました。
- ・行政との連携がとても広くて活動も多くて驚いた。
- ・参考になりました。

C 地域課題の解決に向けた取組

誰でも始められるふるさと還元！

茨城県の魅力を「人の魅力」を通して世界に発信！

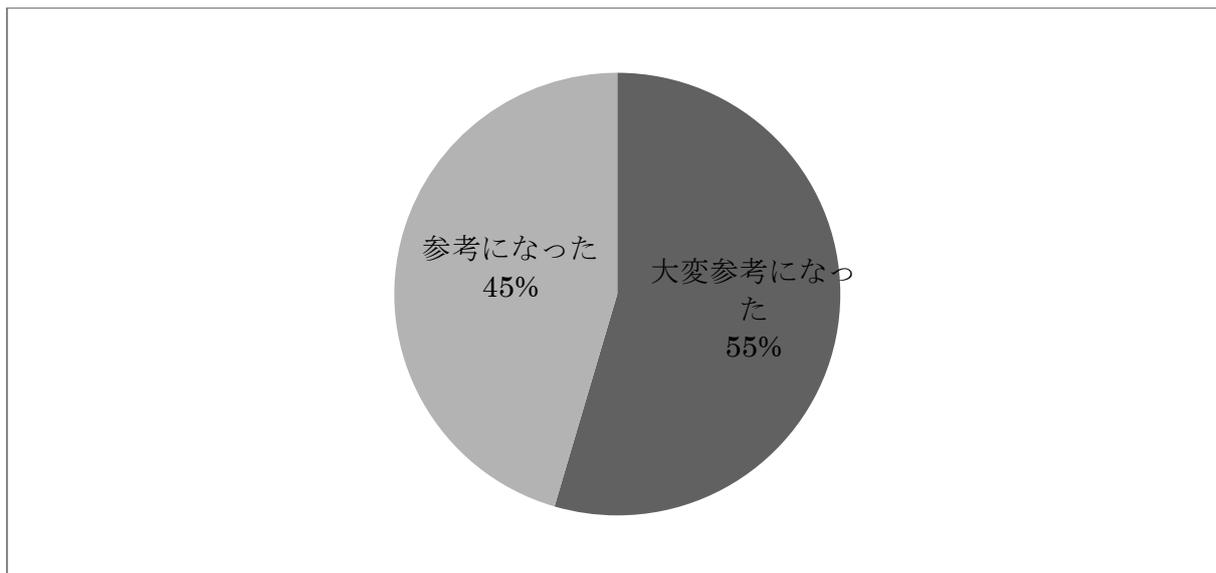
東京／茨城 茨城県出身の女性を応援するマガジンサイト・フリーペーパー茨女



- ・茨女について知らなかったなので、これからチェックしたいと思います。
- ・茨城の魅力を形にして発信していてすごかった。
- ・聞いていてとてもおもしろかった。
- ・一般の方の取組はとても新鮮に感じた。
- ・茨女が普通の人の等身大の活躍をのせていることがすばらしい。

D 地域課題の解決に向けた取組

街づくりと社会教育 福島県 株式会社 楽市白河

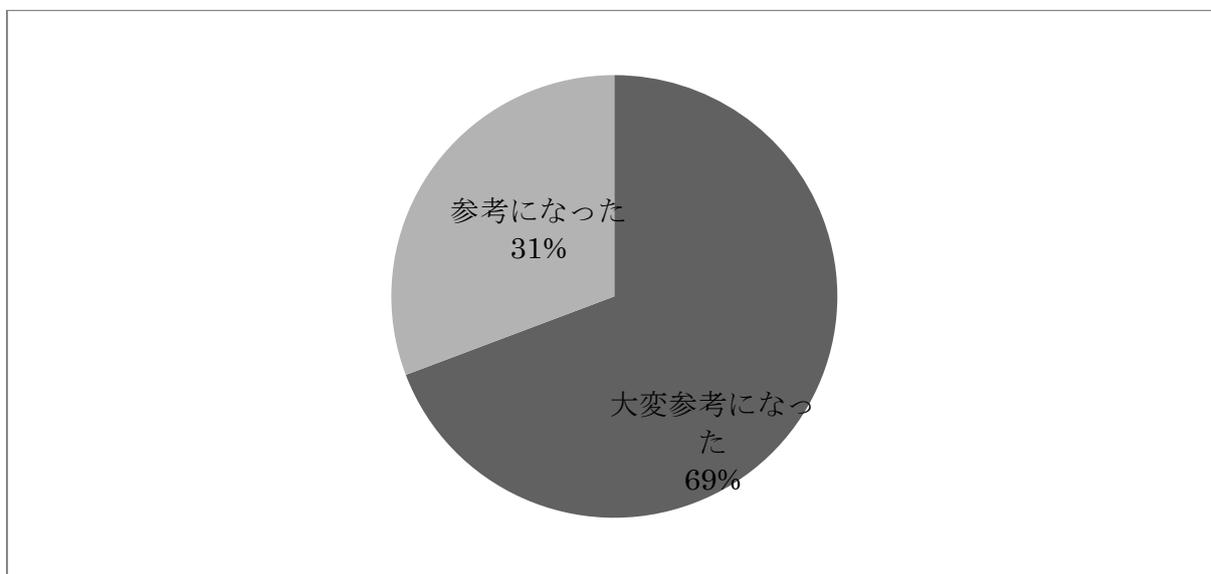


- ・民間企業でまちづくりをする意欲・取組に驚いた。
- ・地元のまちづくりについてもよく考えさせられ、参考になった。
- ・民間企業ならではの取組すばらしいです。
- ・行政の内容との住み分けの難しさはあるかと思いますが、地域の課題解決を事業目的にすえた企業はとてもユニークな発想でエネルギー感を感じました。
- ・民間企業ならではの視点がよかった。
- ・商工関係の取組の中にも学びが見えておもしろく聞かせていただいた。教育・行政との住み分けなども見えれば良かった。
- ・まちづくりに「社会教育」の意識を強くもってもらう取組はすばらしかった。
- ・空き店舗の再利用はすばらしいと感じた。
- ・社会教育や中心市街地の空洞化にビジネスチャンスを見いだした姿が共感できる。
「創造」と「共創」の大切さを改めて認識できた。



E 青少年教育

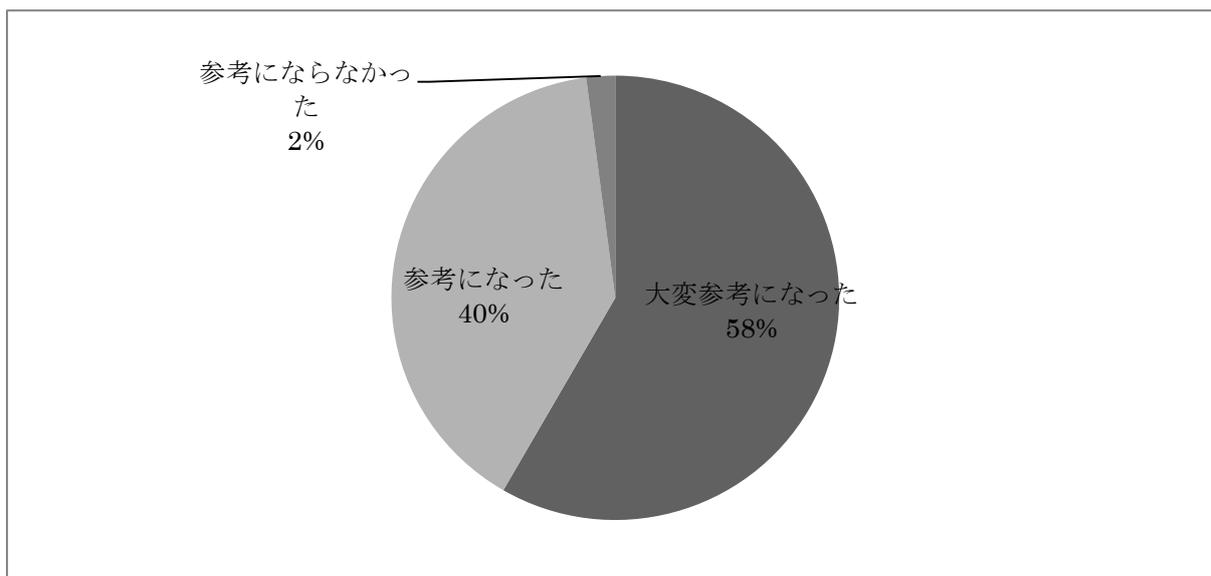
現代を生きる子どもたちの「将来」を育てる取り組みについて
～地域力向上事業「なすかしサマーグレートキャンプ」を事例として～
福島県 国立那須甲子青少年自然の家



- ・子どもの未知なる力を発見し、伸ばしていくという場にいられるのはうらやましいです。
- ・とてもわかりやすく良かったです。
- ・子どもの未知なる力を発見し、伸ばしていこうという場にいられるのはうらやましいです。
- ・とても分かりやすく良かったです。
- ・なぜ、その事業を始めたのかが重要（説明の中に加えるべき）
- ・体験・経験した子どもたちの今後の気になりました。また、保護者の方の意識の変化や子どもたちとの関係に変化はあったのか考えました。
- ・子どもたちの成長した様子がよく分かって、更に地域力の向上を計りたい。
- ・大変魅力的な事業。「地域力向上」に向けてさらなる事業の八手に期待したい。
- ・テーマが発信力でおもしろい。
- ・地域連携を進めたいと思いました。
- ・いい発表でした。



(4) 全体会



- ・もう少し時間が欲しかった。いろいろと話を聞きたかったが、途中で時間が終わってしまったのが、残念だった。
- ・あいさつの中で大会の基調，県・国の情勢が端的にまとめられて，初参加，県外参加者にも大会の目的などが分かりやすかった。
- ・たくさんの方と出会うことができました。
- ・日々前進，生涯学習文化を更に広めていきたいという思いが生まれました。
- ・短い時間でしたが，興味深い話が聞けてよかった。
- ・ネットワークを広げるよい機会となった。
- ・話題を共有するためにも有意義な機会であった。
- ・私自身のコミュニケーション能力が乏しく，同じグループの方に退屈な話を長々としてしまいました。様々な職の方の様々な視点から感想を聞くことができよかったです。
- ・場を作るのがお上手だなと改めて感じました。長谷川先生と一緒にお仕事できる機会があったらいいなと感じました。
- ・わきあいあいと時間を過ごせました。楽しかっただけでなく，いろいろな方とつながり，意見交換できたことはとても貴重でした。
- ・社会教育にかかわっている方々から貴重な話を聞くことができました。
- ・司会進行が素晴らしかった。短い時間を有効に使っている。
- ・新たな出会いでネットワークが更に広がった。
- ・広く交流できた。
- ・楽しく交流できた。
- ・これからの生活に役立てていきたいです。
- ・初めて知ったことがたくさんあった。
- ・クロージングセッションで整理できた。

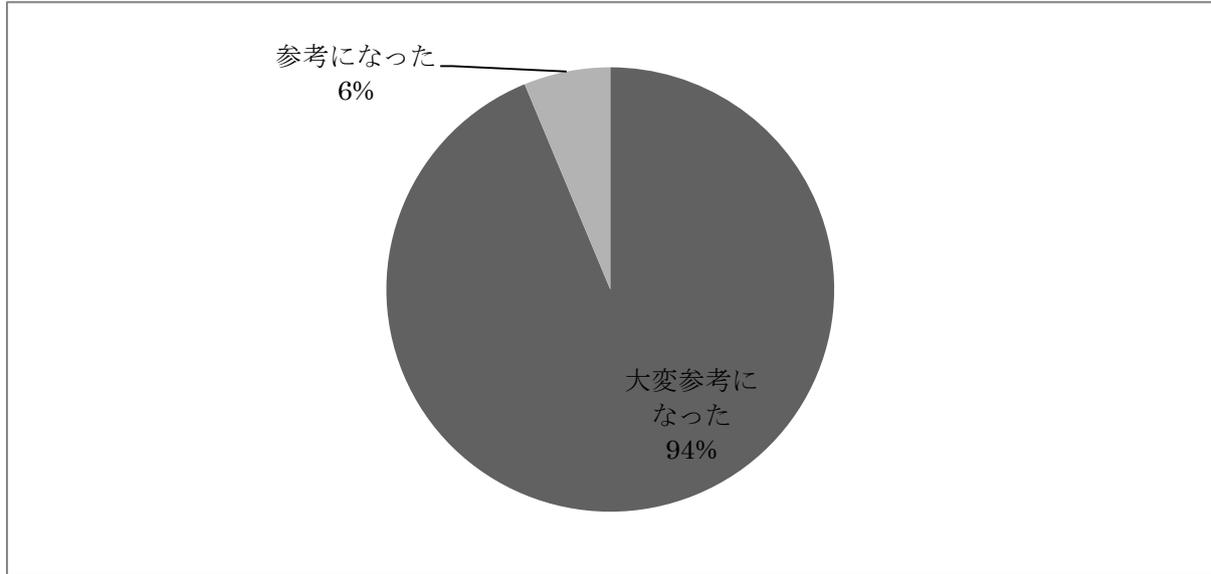


(5) 特別講演

『社会教育に問う！ 今、社会教育にできることとは』

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター長

千葉敬愛短期大学 学長 明石 要一 先生

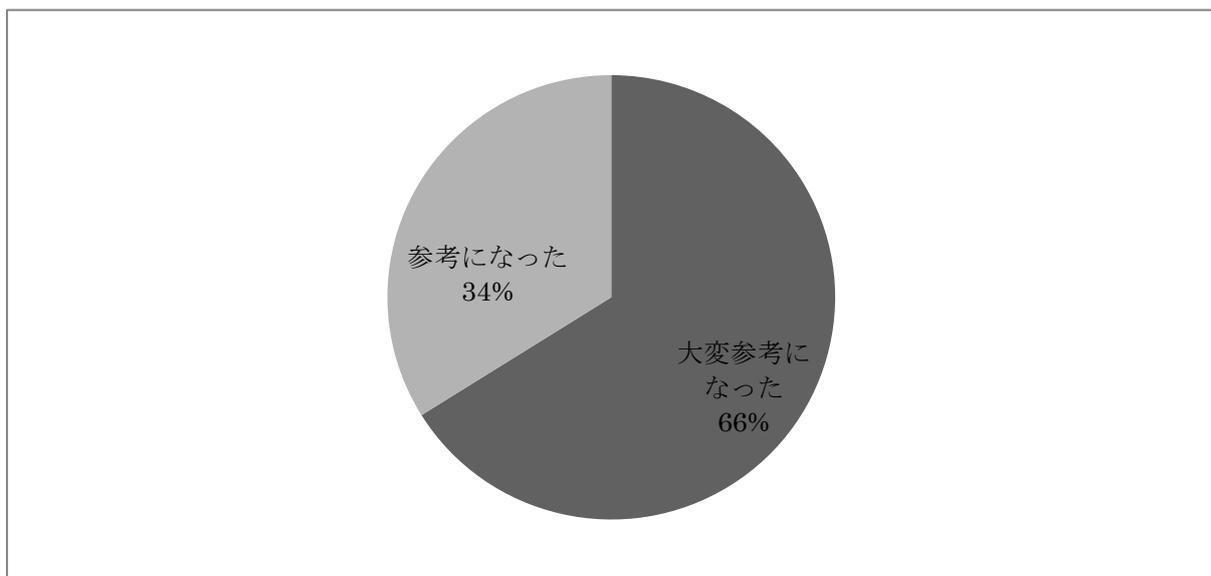


- ・ 普段見過ごしていたことと、社会教育との関連について、気づくことができた。
- ・ 笑いをさそいながらの講演だったので、脳が活性化された状態で受けることができました。今の自分に何ができるのか？を考えるときに社会教育を含めていきたいと思えます。
- ・ 日頃の業務に通ずることが多かった。
- ・ 第一人者の研究内容は有意義であった。すぐにでも役立つ内容でありがたい。
- ・ 地域が元気になると子どもは育つことがよく分かる。
- ・ 今の自分の立場だけを考えるのではなく、視野を広くし、家庭・地域その土地の文化や歴史を考慮し、ネットワークをうまく作り出し、広い視点で子どもたちを教育していかなければと考えた。
- ・ 社会教育の大切さをあらためて勉強することができました。
- ・ 今、実践している営み全体の自己評価ができ、新しい気持ちが湧いてきました。ありがとうございました。
- ・ 現在の実態と過去の事例を並べて、分かりやすくおもしろい話を聴けたなと思った。
- ・ 幼児、高齢者に向けて何が今できるかと思うようになった。
- ・ 講義内容がかたいものかと思ったら、面白く話してくださったので聞きやすかったです。
- ・ 現代的な課題をとらえて、考えることができた講演だと感じました。



- ・子どもの成長段階に応じた，地域の支援の必要性を強く感じました。地域のつながりが希薄になった現代を生きる私たち世代が，これから考えていかななくてはならないと思いました。
- ・明石先生の豊富な知識と納得のいく見識はいつも見事だと思います。
- ・家庭教育，社会教育，学校教育について整理することができたことと，改めて幼児期の人とのかかわりや体験の大切さ，人ならではの良さを生かし続けることの重要性に気付かされました。
- ・現状の社会教育について例えなどを交えた話でとても分かりやすくなりました。
- ・内容はもちろんですが，明石先生の楽しませようという話し方がとてもよかったです。
- ・参考になる内容がいくつもありました。実態に合わせて，実践化をしていきたいと思います。
- ・現代社会の課題を分かりやすく説明していただき，それに対して，学校・家庭・地域がどのようにしていくべきか考えるきっかけになり，できることは実践していきたいです。
- ・社会・地域をどう見ていくべきか，そして，どのようにしていくべきか新しい視点を教えていただけました。
- ・社会教育の在り方に普段生活している文化が大きく影響を与えることを痛感した。よいお話を聞けてありがとうございます。
- ・多くの学びがあった。
- ・明石先生の社会教育への想いを強く感じました。今後，行政と地域を活性化していく必要があると感じました。
- ・飽きさせない講演でした。
- ・内容が的確で，分かりやすかった。
- ・すばらしい話であった。
- ・社会生活の中でかかわるものであることを改めて学びました。
- ・分かりやすかった。

(6) 本大会全般



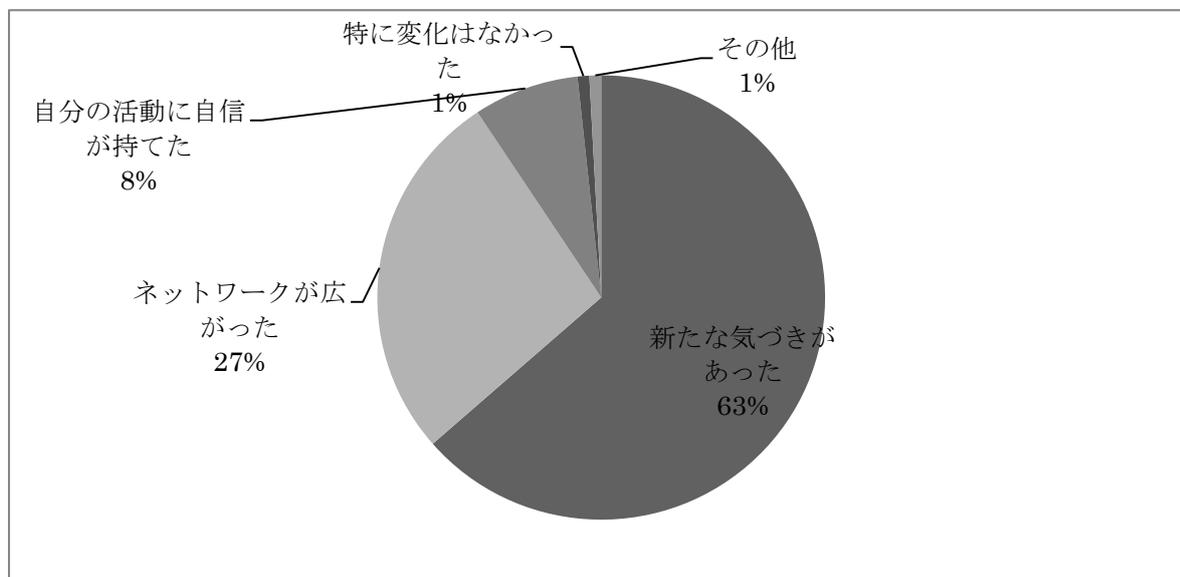
- ・1日目は勤務校の学校行事と重なってしまい参加できなかったのが残念だったが，2日目だけ

でも大変参考になった。

- ・充実した2日間でした。ありがとうございました。刺激を受けるということは本当にいいですね。
- ・昨年も参加させていただいたので、今年も期待してきたのですが、期待通りでとてもよい感じがしました。機会があれば来年も参加したいと思います。
- ・これからの時代を想定していて工夫していると思った。
- ・来年度もよろしく願いいたします。
- ・学校教育から見えなかったことがたくさんあることに気付かされる2日間でした。お世話になりました。
- ・来年もさらに時代の先端を走っている実践者の社会教育思想を展開してください。
- ・交流会ということで、グループをつくって共通の話題や地域・世代別の話をきけてよかった。
- ・時々、笑いもあって飽きることがなかった。
- ・まず、次回も参加したいと思います。今後は、発信する立場を経験したいと思えるようになりました。
- ・地域の担い手として障害のある方が話題にあがってこない現状を踏まえ、今自分のいる立場でのふんばりや拡散できるものを作っていくといけないと考えさせられました。
- ・目上の人ばかりで緊張しましたが、地域でそのような取組をしているということが分かってよかったです。
- ・大変盛会ですばらしかったと思います。関係者の皆様おつかれさまでした。ありがとうございました。
- ・今回の交流会で本当にたくさんの人と出会うことができました。中には、意外なつながりもあり、大変貴重な経験となりました。活発な意見交換もできてよかったです。
- ・学びと出会いの多い会でした。夜も楽しかったです。
- ・自分たちの身近にあるスポーツなどと関連させて考えることができ良かった。
- ・意見交換などがとてもよかった。
- ・時間通りに日程が進んでいた。
- ・多くのインプットがありました。コンパクトかつスムーズに進み研修に集中して臨めました。
- ・とてもよかったです。
- ・自分の知らない活動などを知れて良かった。聞きなじみのない単語を知っている前提での説明もあり、少し混乱した。
- ・全体的に発表が短く、理解しきれなかった。そのため、協議もあまり有意義なものにならなかった。
- ・とてもためになるお話ばかりで、とても充実した時間でした。もっと広がりを見せられたらとわくわくしています。
- ・様々な人と話すことができ、とてもよい経験になった。
- ・スタッフに感謝です。
- ・知らない人と少しでも話すことができよかった。
- ・他の人のさまざまな体験や行動や考えを聞けて良かったです。

- ・自分の知らないことがいろいろ分かって良かった。
- ・お疲れ様でした。今後とも続けてください。

(7) この大会参加をきっかけに、あなた自身にどんな変化がありましたか。(複数回答)

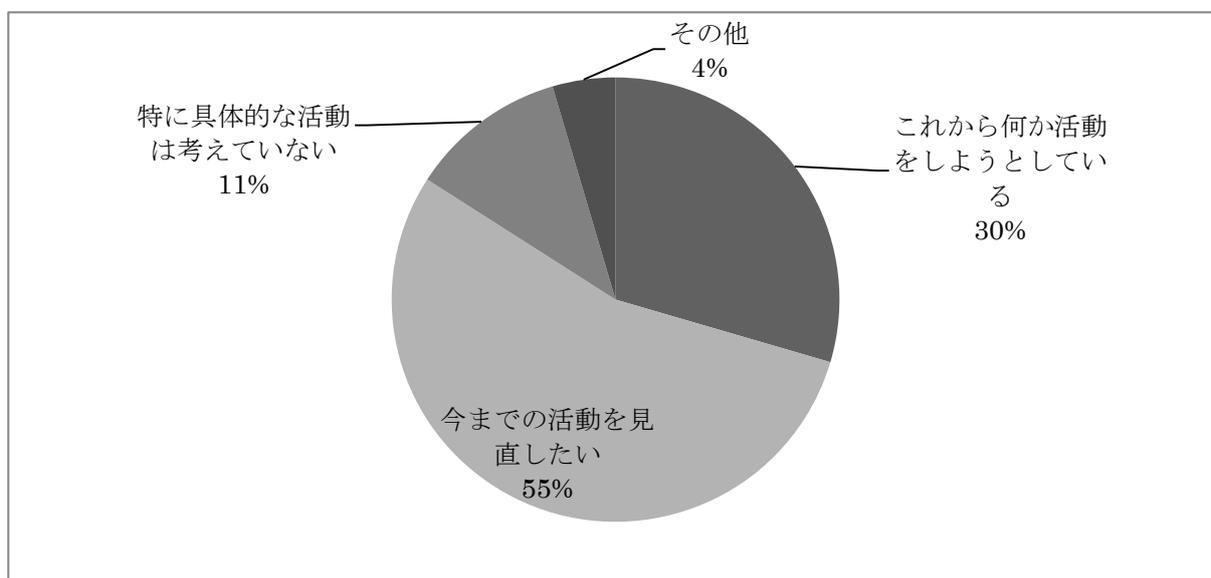


- ・始めて参加しました。とても良い時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・自分自身の仕事に誇りが持てました。明日からも頑張りたい。
- ・ボランティアなどに参加しているのでこのまま続けていこうと思った。
- ・地域コーディネーターは必要なのか？と思っていたが、今日の話聞いて大切さ重要さが分かった。
- ・グループで話し合いをして、自分だけでは気付かなかったところがあった。そのことを質問し、答えを聞いて理解・納得することができた。
- ・去年も参加はしたのですが、また異なった視点のお話がたくさんあって、ついメモをたくさん取ってしまいました。
- ・実践者とつながる非常に貴重な機会だった。
- ・会場Dの境町の発表を拝聴させていただきました。私の地元もスポーツ、特にサッカーチームでまちおこしをしているのですが、チームと併せて町もアピールすることの大切さに改めて気付きました。
- ・明日からも意欲的に活動しようと思う。
- ・「ASE」や「学校から地域へ」というキーワードを今後の仕事をする上で気にとめていきたいと思いました。
- ・経済と学力格差の間にある体験活動の大切さが理解できた。
- ・明石先生の講話の中に、幼児教育に関することや相通ずる事象が数多くあり、保護者会などに活用させていただこうと思った。
- ・地域と学校とのつながりも考えるようになりました。
- ・電車の中でお年寄りの人に席を譲ろうとしても怒られることがあったがどうすればいいかなど

思いました。

- ・先進地域として、地域が抱えている課題に挑戦していきたいです。
- ・発表・協議の時間が短く、消化不良で進んでしまい、少々もったいない気がする。自分たちが抱えている課題に関してやいただきたい援助やご指摘がその時に気持ちの中にあっても時間が経ってしまうと消えてしまいます。興味をもってくださった方とは名刺交換だけでこれからのように発展していけばいいのかと考えました。
- ・他の自治体、団体等とのネットワークができた。
- ・比較検証ができ、有意義であった。
- ・自分自身の仕事に誇りが持てました。明日からもがんばりたい。
- ・初めて参加しました。とてもいい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

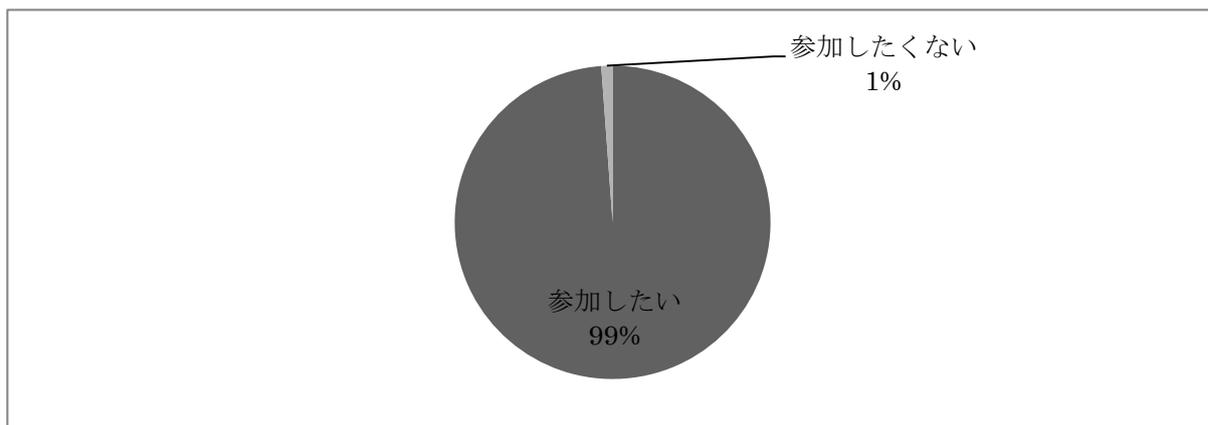
(8) 今後の具体的な活動について、どのようにお考えですか。(複数回答)



- ・仲間作り…ネットワークを広めることと、全体をコーディネートする大切さを知った。また、手を広げると運営はスムーズになることも知った。自分たちのフィールド内により多く、一人でもいいから理解し、協力してくださる方を増やし、生徒がよりよくなっていく方向につなげていきたい。
- ・地域創生と社会教育の明日を占う事例は成果を上げている。先進県の事例を提示していただければよいと思います。
- ・遠いとお金がかかるので、近場のボランティア活動に積極的に参加したい。
- ・ASE のファシリテーター養成研修を受けたいと思いました。そして、児童だけでなく、教員同士で取り組めたら、新たな人間関係が築けると思いました。
- ・地域に飛び出していく。
- ・何らかの活動や行事に参加しようと思った。
- ・来年度からゼミナールに入るので、専門的なものも学んでいきたいと考えています。裏方となる人たちの活動を知りたいし、自分なりに学園プログラムを考えてもみたいです。
- ・現在行っている活動の参考にして進めていきたい。

- ・地域で活躍されている方の力になりたい。
- ・元気なまちを作っていきたい。
- ・地元をもっと知ってもらう、チームのファンを獲得するためにまずは町とチームの愛されるポイントを増やし、アピールすることが重要だと思ったので、私は自分の SNS から自分の町のいいところを発信していこうと思います。
- ・今できることをしっかりやっていこうと思う。
- ・学校教育の現場で、地域の教育力（ゲストティーチャー）を活用したり、講演などを行ったりするなど、学校の中に地域人材の方々に入っていただけるようにしていきたいと感じました。
- ・私は、更生保護の取り組みをしているボランティア団体である BBS という団体に所属しています。非行や問題を抱えた少年たちの社会復帰を支えるボランティアです。少年たちと BBQ をしたり、スポーツ大会で交流したりしているのですが、この活動を知る人は少ないです。社会復帰には、地域の方のつながり、支援が必要である事を改めて感じ、広報活動に力を入れていきたいと思いました。
- ・本交流会で得た情報をもとに、より良い事業の展開を考えたい。

(9) 次年度の交流会に参加したいと思いますか。



- ・先進地域の活動が参考になるような具体的事例の発表を期待する。
- ・九州地区の第35回に追いつき追い越していければいいです。
- ・次年も様々な話をききたい。
- ・他の県の方やいろいろな立場の方から話をおききすることができ、知見が広がりました。教員職だからとか、事務職だからとかいうのは、社会教育において関係ないと改めて感じました。
- ・将来のためにその人の考えやその地域の状態等を参考にしていきたい。
- ・来年度はできるだけ日程を配慮して、自分の関心のある分野を選び聞いてみたい。
- ・様々な人と話すきっかけがつかめるし、視野を広げることができる。
- ・来るのが大変だったり、ネガティブになることもあるけれど、自分がまだ知らないことを見たり、聞いたりできるいい機会なので、また機会があったら行きたいです。会った人ともまたお話ししたいかもしれません。
- ・都合が合えば、ぜひ参加したいです。
- ・H29年1月28～29日の「未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究集会松本大会」

にも是非お越しく下さい。(要事前申込)

- ・社会教育に関連する事例をこれほど多く見る機会が関東ではなかったのがたいです。
- ・境町の進展を聴きたいです。
- ・ぜひお願いします。
- ・提案について、関東近県であることが望ましいと思いますが、全国的に先進的な取組や「まずやってみよう」と取り入れやすい内容などの情報に触れられるといいなと思いました。
- ・機会があれば、是非参加したいと思います。

(10) その他(意見、感想等) その他お気づきの点がございましたら、ご意見ご感想等ご記入ください。

- ・今後も続けていってほしいです。有意義な会でした。
- ・たいへん、参考になる講演会であった。
- ・2日間、天候に恵まれ、落ち込んだ少々荒れた気持ちが上向きになりました。これまで運営された方々の力が結束されたからだと思います。その雰囲気が会場内に広がっていて穏やかな2日間であり、明日への活力になりました。お世話になりました。ありがとうございました。
- ・今回、発表者として参加しました。今までの取組を振り返るよいきっかけになりました。今後の取組にいかしたいと感じました。お世話になりました。
- ・時代の変化をどう読み、世界の中での関東地区の人間としての生き方をさらに極めていきたいです。
- ・道案内がきちんとしていたので、初めてでも迷わずに行けた。
- ・大人の方が大人同士でグループを組み大学生とつながろうとしなかったため、こちらからは話しかけづらかったです。大人と大学生でグループを組んでお話をしてみたいです。
- ・いくつかの発表をお聞きする中で、参考になるもの、もっと改善すべき内容があることも分かりました。(自分が何か言える立場ではないですが) だからこそ、このような研究交流会が必要なのだと思います。
- ・スーツでの参加の方が多く、普段着で参加した私は少々肩身がせまく感じました。
- ・15日に参加していないので何とも言えないのですが、16日に参加した大学生は片手で数えるほどでした。有意義な時間となると思うので、多くの大学生にも参加してもらいたいと思いました。
- ・駐車場を心配していたが、きちんとした準備と案内がなされていて助かりました。ありがとうございました。
- ・菊池会長の続投に賛成です。
- ・提案にかかわる参加者が多かったように感じます。いかに関係者以外の方々へ広げていけるかが今後期待したいところです。
- ・少子高齢化に関する話題は社会情勢的に分かりますが、今後障害のある方の社会教育についての情報が得られるものがあるとよいと思います。

- ・動き出しのうずを作るのはエネルギーが必要であり、同志の存在が心強さ、支えになると考えています。そんな仲間が得られたらいいと思いました。
- ・貴重な機会をありがとうございます。
- ・このような、素敵な大会に参加でき本当によかったです。申込をする前は、「学校教員なのがいいのかな」という思いもありましたが、2日間参加させていただき、今では、「学校の教員、事務職」というものは関係ないと改めて思いました。来年は知り合いを連れて参加したいです。ありがとうございました。
- ・今後も続けて欲しいです。有意義な会でした。
- ・分科会のグループディスカッションはいい。
- ・全体会のときに参加者が減った。講演の前にはどうか。
- ・宿泊研修施設での開催を検討してほしい。
- ・午後からの開催では、各発表が窮屈。午前中からの開催にできるといい。(発表時間 30 分+研究協議 20 分=50 分)
- ・申込の時点で宿泊ホテルが満室だったため、夜の懇親会に参加できず帰ります。ホテルの確保ができるといいですね。
- ・都合で参加できない人も多い。1 日で実施してほしい。
- ・茨城の学校は他県に比べだいぶ閉鎖的だと感じた。学校教員こそ、この大会に参加してもらいたい。その必要がある。学校への参加要請の案内を教育委員会を通じて行うべき。
- ・学校関係者は、地域や社会とつながることの重要性を学ぶべきと強く感じた。
- ・去年もこの交流会に参加した。去年と比べるとスーツの姿の人が減った印象を受け、堅苦しいものを感じず、楽しく活動に参加できた。
- ・スーツの参加は、とあったけどやはり多いイメージがありました。自分はいいと思っはいるのですが、自分もスーツで来た方がいいのかなとも。かたいイメージがまだ少し取れていないかなと思いました。
- ・少し人が少なくなったように思いました。前はとともぎゅうぎゅうで苦しかったという印象もあったので。話も集中して聞くことができたので、このくらいのスペースがちょうどよかったかなと思いました。
- ・全ての研究発表、どれを聞くか悩むほどよい内容と期待をもたせる研究発表、研究発表後のレジュメ、報告書がほしい。
- ・よい雰囲気でした。
- ・関係者のみなさま、お疲れ様でした。とても有意義な研修ができました。ありがとうございました。
- ・これだけの事例を集め、大会を運営するのは大変なご苦労があったと思います。本当にお疲れ様でした。
- ・他県を巻き込み、実行委員会の運営を工夫することで、負担を軽減し、ぜひ“継続”してほしいです。本当にありがとうございました。
- ・継続できるように祈ります。
- ・茨城から関東近県にどんどん広がっていくよう努力したいと思います。

- ・人が集まることでネットワークが広まり、それが社会教育全体の活性化につながると思います。
- ・ありがとうございました。
- ・各事例報告において、住民の位置づけや役割について触れてほしい。各事例での住民が講座に参加する「お客さん」の印象が強かったが、人材育成や担い手育成という点で、住民の当事者意識や自主性をどう育んだかという視点を各報告の共通項として取り入れていただけるとより参考になると思いました。
- ・各事例報告の取組が、行政・まちづくりという大きな視野で見たときの位置づけや意義にも触れていただけるとより参考になると思いました。集会の作り方も変わってくるので可能であればお願いします。
- ・2日間ありがとうございました。
- ・もっと幅広い人たちに参加していただければと思います。
- ・今回の大会につきましては、様々な準備、とりまとめ、当日の企画運営など、本当にお疲れ様でした。今回も貴重な出会い、学びを得ることができましたことに心から感謝いたします。2日間本当にありがとうございました。
- ・クロージングセッションで主催者が総括することは、次につなげるために良いことだと思いました。
- ・後半、参加者が少なくなり、意見交換が成り立たない。学生が動員されているようなので、意見交換の仕切りをしてもらえるとありがたい。
- ・受付の皆さん、関係者の皆さん、親切に誘導していただいてありがとうございました。
- ・講義質問の時間がもう少しほしい。
- ・茨城県の実践の話が①で重なっているの見直してほしい。
- ・菊池先生がんばって！でも、近県なんだから、栃木、福島と組んで交互にという考えもありでしょう。
- ・本大会が次回以降も継続していくよう祈っています。明石先生の話にあった社会教育の属人主義からの転換、この課題を克服して行ってほしいと感じました。
- ・素晴らしい会に参加させていただきありがとうございました。お疲れ様でした。



6 参加大学生からの感想

- ・講演の内容ももちろんおもしろかったが、社会教育関連の職に就いている人々と討論をするという貴重な体験が再びできたので、2回目も参加してとても良かったと思った。去年よりも積極的に討論に参加し、たくさんの意見をきくことや、新たな社会教育に関する用語も知ることができたので、とても充実した時間を過ごせたと思える。雰囲気も去年より柔らかくなっていたので、参加した学生の意見などもきちんと聞いてくれたのをうれしく感じた。また機会があれば参加したいと思う。
- ・いろいろな人がいろんなことについて話し合える場として、今回の関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会のようなイベントを増やしていくのがよいと思う。会場によって違いはあるが、会場Aでは若い人もたくさん参加していたことが印象的だった。50歳くらいの人たちばかりだと思っていたのが、20歳や30歳くらいの若い先生や教育関係者の方、さらには常磐大学以外の学生の方も参加していたようで驚いた。これからの未来を作っていく人たちが集まり話し合う。そんな機会はなかなかない。今回のような交流会にもっと人が集まるように、もっとわかりやすい内容のものを発表の題材にしたり、交流会が行われるという情報をもっと多くの人に知らせたりすることが重要だと思う。
- ・15日に参加して、私がいた会場はどこも雰囲気がよくて、大学生も発言しやすく、とても居心地はよかったと思う。大人の人と交流して事例に対して一緒に考えたり、意見を言い合ったりして新しい考えなども知ることができてとてもいい経験になった。結構楽しかった。
- ・私は地域課題、現状など日々学習しています。だから、こういった会は私にとってとても良い経験になりました。また、最後の協議に関して他の人の地域に対する思いについて聞き、自分の未熟さを知りました。これから大人と論点が合うように頑張りたいという気持ちが大きくなりました。
- ・交流会では、大人の人たちと意見を交換できたことが自分にとって勉強になりました。大人たちだけでなく、私たち学生も輪に入ることができれば、とても貴重な時間になると思います。これからもこのような活動の紹介があった時は、ぜひ参加したいです。
- ・社会教育についてどのような活動をしているか、また大人の方たちと意見を出し合うことで、もっと良くするにはどうしたら良いか考えることができたので、とても良かったです。
- ・発表の後の時間に、大人の人たちが、とても私じゃ思いつかない質問をしていてすごいなと思った。
- ・自分たちよりも年下の高校生たちの発表を聞いて考えることがたくさんあると感じた。
- ・なんだかんだでスーツの人がたくさんいて浮いているような感覚がした。
- ・社会教育主事の資格を取ってみようと思うようになった。
- ・とつてもためになる話を聞くことができたが、グループで話し合いをする時にスーツの大人たちがかたまっで話していると、とても話し合いに入りづらかった。大学生をもっと迎え入れてくれる姿勢が感じられると良いと感じた。
- ・交流会の発表では、様々な施設の方が行っている色々な活動について知ることができ、興味深かったです。また、発表後に他の人の意見が聞けたという点でもとても勉強になりました。

- ・大学生の他に教育委員会の方など、たくさんの大人の方が参加していて新鮮でした。意見交換するとき、実際の社会教育主事の方と話すことができ、友だちと話すときとは違った意見が聞けておもしろかった。
- ・初めて知った事例（DAISY）があり、参加して良かった。ただ、発表に制限時間があり、もう少し詳しく説明を聞きたかった。（最後の方はかけ足になってしまっていたので。）大人の人と話すことができ、刺激になりました。
- ・パワーポイントのプリントで文字が小さく見づらかったのもう少し大きくしてほしい。学生だけでなく学校の先生などの違った立場からの質問や意見が聞けて良かった。県内、近隣県での活動を知れて、自分も将来の仕事がこんな風に働くかもと考えたりした。
- ・2つの発表を聞いた。中でもネット依存の話がわかりやすく聞けて良かったと思った。
- ・大人向けなのはわかるのですが、知識のない自分にとって聞いたことのない用語を当たり前のように説明文に使われていて何のことかわからないまま進んでいった。メモなどもとれないくらいポンポンとスライドが進むから、必要性はと感じた。しかし、こちらに合わせていただくのもなってしまうので、難しいですね。
- ・交流会でスーツでの参加はできるだけご遠慮くださいと書いてあったが、スーツの人が多くいたような気がした。
- ・交流会に参加して、社会教育主事の仕事がどういうものなのかがわかりました。交流会などに参加して、もっと社会教育主事の仕事や、いろいろな人の考え方などを知ってみたいと思いました。また、自分もそういうものを考えてみたいと思いました。
- ・茨城東高等学校の発表を聞いたのですが、高校の先生方とグループになっていろいろなお話を聞くことができたのでとても勉強になったし、楽しかったです。ただ、少し時間が短かったなと思いました。
- ・グループ討論が難しく話していた内容も難しかった。しかし、色々な話が聞けてとても良かった。時間がなかったため2つしか行けなかったが違う話も聞いてみたいと思った。
- ・交流会に参加したのは、大学生だけかと思っていましたが、学校の先生や教育庁の人の話が聞けて、とても貴重な会になりました。今回はバイトもあり、2つしか聞けなかったのですが、来年はもっと多くの話を聞いてみたいです。
- ・交流会に参加してみても難しいと思いました。まだ生涯学習について、よく知らないものもありますが、内容が全体的に難しく感じました。もう少しだけ説明などをしていただけたら幸いです。あと、発表の時間が少し短く思いました。もっとゆったり話していただきたいかったです。発表後の対話の場で、大学生以外の方とも話してみればよかったです。
- ・交流会に参加して、すごく勉強になりました。僕の住んでいる日立市もこの話を参考にしていけたらなと思いました。
- ・自分が今まで知らなかった事を知れて有意義な時間を過ごせた。おもしろかった。次、同じようなイベントがあったら、ぜひ参加したいと思った。
- ・交流会はとても楽しかったです。内容も潤沼についてで、とても興味もひかれました。そして、グループになって話し合いの時間を設けてくれたので、知らない方の話や、その人の意見を聴くことができ、とても良い時間でした。

- ・交流会では、様々な事例発表を聞いて、少し難しいところもありましたが、いい体験になったと思います。大人の方との意見交換も相手がいろいろと質問してくれたり、お話を聞かせていただいたりと、ためになりました。その後、予定もあって2コマしか参加することができなかったので、もう少し聞きたかったです。次回も行きたいと思いました。
- ・交流会に参加するまで、どんなイベントなのか全くイメージがわかかなかったのだが、たくさんの大人と意見を交わし、こんな考え方があるのかと自分では気がつけなようなことを発見する良い機会になった。高校生の時、ボランティアに参加してお世話になっていた方と久しぶりに交流会で偶然会うことができたので嬉しかった。
- ・交流会の感想は、とてもおもしろかったけれど、周りの人と話し合ってくださいって急に言われてびっくりしました。最初にそういう時間があることを知っていたかったです。
- ・交流会に参加しました。大人の方のいろんな話を聞いておもしろかったです。
- ・交流会には、1コマ参加させていただきました。関係者の方も参加者の方も温かく迎え入れてくださって、とてもなじみやすかったです。発表の時間か意見交換の時間をもう少し増やしていただけると、もう少し充実した考えが浮かぶかなという印象を受けました。
- ・交流会は、席を友だちとかがたまって座ってしまったので、移動とかできて話をできたらいいなあと思いました。
- ・15日の交流会に参加しましたが、前列の方はスーツを着た大人の方ばかりで少し驚きました。お話の後の質問なども時間がないし、学生は外野みたいでちょっと残念でした。終わった後も名刺交換などをしているのを見て、すごく大人の世界だと感じました。
- ・様々な人と交流できるようにグループをあらかじめ決めておくなどしてみてもどうでしょう。また、高校生や大学生、社会人など、分かりやすい目印が欲しいと感じました。
- ・交流会に参加して、まず私は緊張しました。「地域と学校をつなぐ工夫」の事例をきいて、私は地域政策学科なので、聞いていてとてもためになりました。他の地域の話やグループにわかれ様々な職業の大人の方々と意見を交わすことができ、とても貴重な経験になりました。
- ・1コマに参加し、とても楽しくお話しして下さったので、楽しく聞くことができました。しかし、周りの大人の方が大学生に関わろうとしてくれず大人同士でグループをつくり、にぎやかに話していたので、少し戸惑いました。
- ・話はわかりやすかったが、グループワークなどがあったので、もっといろいろな人と話をしてみたかった。時間があまりなかった。
- ・交流会に参加して、勉強を始めたばかりの私が大人の中に入ることは、とても緊張しました。でも、現役でフィールドに出て活動されている方々の話を聞くだけでも大変勉強になりました。今回は、大人の方と話せなかったのですが、私自身も大人の方から話しかけられやすいようなおしゃれすぎない服装に気をつけようと思います。
- ・茨城大学では、ボランティアの話の話を聞きました。トーク力、思いつき、お金を使わずにどうすればよいか、今自分にできることを改めて考えるような1日でした。



7 事例発表協議メモ集約結果

会場A

① こうすればできる！学校と地域をつなげるひと工夫 ～地域連携重点推進モデル事業の実践から～

- ・PTAはどのような役割を担っているのか
→ 切りはなしてはいないので、イコールではないが、協力し合っていていっしょに活動している。
- ・お互いのニーズが違うこともある。担当の教員が変わっても継続するためには。
→ 自分が移動したらという心配は多少ある。教務主任でもあるので、年間計画に位置づけてしまう。(これが重要) 情報交換の連絡会を行っている。
- ・作成資料「地域資源(人, もの, こと)活用授業一覧」などは、学校主導で作ったのか? 話し合ったのか?
→ 学校側で作って提案した。本来なら協議して作りたい。
- ・茨城県内では地域の人のかかわりにだいぶ地域差がある。
→ 市貝町もまだまだ学校が主導しているところもある。

② 地域とともに伸びる学校をめざして ～学校から地域へ はじめの一步～

- ・地域から学校へはよくあるが、学校から地域へという姿勢がすばらしい。地域とボランティアの線引きはあるのか。
→ 特にないが、ボランティアはサポート、指導と2通りあると認識。
- ・地域連携がイベント的になるのが不安。
→ 中途半端な活動にならないように通常の教育活動の中に組み込んでいる。(カリキュラムマネジメント)
- ・継続性を持たせるためには、コーディネーターの存在が大切であるが。
→ ボランティアもコーディネーターも出会うことで現れてくるものである。まずは地域との連携がはじめの一步。
- ・就学前教育を進めていくための工夫。
→ 就学前の情報交換から一歩進んだものを考えることから始め、今は開発段階である。
- ・子ども自然塾は土曜実施であるが、時数対応は。
→ 自主参加だが、全員参加しているのが実情。時数カウントは無い。企業が主催というスタイルで行っている。



③ 学校・家庭・地域の連携協力による学力向上推進事業

～地域運営委員会による「学力アップ大作戦」～

- ・謝金はいくらなのか。
→ 1時間1,000円（地域の人、保護者）。大学生にも出す。高校生には図書カード。
- ・学力の格差が出ている。児童らが内容を選べるのか。
→ 様々なプリントが用意されている。ボランティアが見て提案。
- ・誰が参加するか。学校は把握するのか。手続きは。
→ コーディネーターが名簿で確認。
- ・生徒指導上のトラブルは誰が解決するのか。
→ ボランティアが困っているときには、学校の先生がボランティアで参加。
- ・放課後子ども教室との関係は。指導者養成のしくみは。研修は。
→ 学力に特化した放課後子ども教室である。研修会，全体会で意思統一。

④ 元気な学校をつくる朝霞二小「学校応援団」

～楽しく 無理なく 身近なことから～

- ・県，国の補助金はあるのか。
→ コーディネーター謝金はなし。PTAより6万円補助。しかしファームの運営費へいってしまう。
- ・応援団の事務局は。
→ 「ふれあいルーム」という形で会議等を行っている。（空き教室）
- ・PTAとの関係，連携は。
→ 応援団独自で活動している。あくまで地域の一員として学校に関わっている。PTAの役員の1人が応援団に属し，連絡などはその方が行っている。
- ・朝霞グランパ（在校生のおじいちゃん）との連携もある。
- ・保護者，学校の連携が上手くいくためには。
→ 発起人の学校長より応援団のスタンスをはっきりと伝えられたので，自分たちのスタンスが明確化された。

会場B

① 就学前教育における家庭教育支援について

～保健福祉部局，企業，地域と連携した家庭教育支援基盤の形成～

- ・社会教育主事として活動しているが，今後異動した時の引き継ぎはどう考えているのか。
→ プレゼン，Wordで引き継いでいく。他の職員にも引き継ぐ。
全てを引き継ぐのは難しい。新しい担当者には自分の色を出して欲しいと思っている。
- ・脳科学のどのようなところに注目，注意して講話で活用しているのか。

→ 文科省からも取扱いに注意すると言われている。名の通った脳科学者を紹介している。最大公約数という意識をもってやっている。誰かに講話の内容をチェックしてもらう必要がある。

- ・父親の参加状況，男性を引き出す工夫は。
 - 企業内の家庭教育学級では男性（父親）の参加がある。おやじの会等も考えている。
- ・なかなか事業が広がっていかない。事業の継続性についてどう考えているか。
 - 継続性は考えている。幼，保，3か月検診についても。
- ・参加した親が指導者となる取組，ネットワークについてどう考えているのか。
 - 受講者が指導者となる取組については，親学講座で考えている。
- ・気づきをうながす参加型の取組についてはどう考えているか。
 - 参加型のプログラムまでは至っていない現状がある。

② 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の取組

- ・支部を中心とした活動が盛んだが，資金は？教育委員会との連携は？
 - 補助金はない。会員の会費のみである。支部の中では，補助金をもらっている所もある。就学時健診で生涯学習課と連携してワークショップを行っている。親学習のプログラムで，公民館，生涯学習センターで謝金をもらっている。少ない資金の中でやりくりをして活動を続けている。市町によって，実情が違うのが現状である。
- ・各支部ごとにやっていることが違うがそれはなぜか。
 - 各支部ごとに地域性を生かした活動を展開している。宇都宮市は外国人が多いので，それに関する活動を展開している。県北地区は0才児から3才児の子どもを持つ親の居場所作りを展開している。

③ 家庭教育を支援する「親育を考える会」の取組

- ・チラシの広報，参加者などを考えると「教育が必要な人」の手に届きにくい，何かいい手段はあるか。
 - 最大の課題である。公民館を利用し「はらぺこさんあつまれ！」という事業を行っている。そこに来た「子ども」をみんなで見守る体制をつくっている。学校にも上記のような支援を紹介している。
- ・社会福祉施設との連携はあるのか。
 - 基本的には，学校やその保護者を対象に活動している。講演会を中心に活動を行っている。
- ・「大人の文化に子どもを入れるな」とあるが，大人の文化に子どもを入れる必要はあると思うがいかがか。
 - 居酒屋や夜遅くのカラオケなどの大人の文化に子どもは入れたくない。それより，子どもならではの文化を大切にしてもらいたいという思いがある。

④ 地域での学びの場づくり

～家庭教育学級をはじめとする多様な取組～

- ・連携の維持はどうしているのか。財源はどうしているのか。
 - 連携は、減ることなく増えてきている。よい関係を保っている。
委託を受けているので、そこから寄付をもらっている。
事務局は自宅である。ボランティアの要素が強い。
- ・活動の維持のコツは？NPO に向けての方法は？
 - 行政との連携があった。市にお願いするには、NPO になっているとよいという話があったので NPO にするようにした。
- ・訪問型家庭教育支援について、接点をつくるのが難しいと思うがいかがか。
 - ホームスタート（家庭訪問型子育て支援ボランティア）は手を上げてくれた人で行っている。年間 30～40 人。保健センターからの紹介である。

会場 C

① 茨城県立茨城東高等学校「We are 潤沼っ子！」の ECO 活動

～学び×地元×つながり×広がり～

- ・大学生との交流はあるか。大学生になってからの活動は同様に考えているか。
 - 私自身は常磐大学への進学を考えている。進学後は高校生とのワークショップなどができたらよいと考えている。
- ・どうしても全体のバランスを考えてしまうのだが、他の生徒の反応はいかがですか。温度差はないか。時間配分で工夫しているところはあるか。
 - 温度差はある。悩みである。
放課後にアクリルたわしなどを作っている。意識の高い生徒は男子も作っている。
アクリルたわしの作成に係る予算は茨城県からいただいている。
- ・アクリルたわしを使うとどれくらい洗剤量が減るか。
 - 学校では洗剤を使っていないので、把握していない。
アクリルは糸の質によっては、汚れが落ちないので、糸の質は大切にしている。
- ・生物に対する取組は何かしているか。
 - 学校保有林にキジがいたり、カブトムシがいたりするが、取組はしていない。
- ・アクリルたわしを使用しての感想は。
 - 感想はまだ聞いていない。
- ・今後はどのような内容で活動していきたいか。
 - YouTube など広めていきたい。また、ブラッシュアップのときに協力いただいた方とも連携をはかっていきたい。
- ・つと豆腐については、どのように活動していくのか。
 - つと豆腐については、1 年生に対して講義をしてもらい、実際に作るまで行った。今後は給食に出せるとよいと考えている。

- ・他の高校との交流をしていくことは考えているか。
 - 話には出ているが、まだ行動にはうつせていない。
- ・今後、どのような活動をしていきたいか。
 - 手作り石けんを作っていきたい。
 - 下級生にどのように伝えていくか。他の生徒にも今までよりも理解させていくにはどうしたらよいか。他の団体との連携をどのように継続し、強めていくかなどの課題を検討していきたい。

② 独自の民営化制度に基づく公民館市民カレッジの受託について

- ・参加者の年代構成と現役世代の参加の手立てを教えてください。
 - 平日のためリタイアされた方が大半であり、平均60代半ばである。紹介フェアの他、「はじめの一步講座」を年4～6回実施している。また、インターンシップで活動を知ってもらえるように工夫している。長寿大学でも広報している。
- ・行政が担い手育成をしているか。
 - 市民活動支援課が中心になって行っている。高齢福祉課からの依頼もある。NPOを育てている。社会福祉協議会でも行っている。
- ・運営の形態について、主催講座を全面的に行っているのか。複数の団体が行っているのか。
 - 公民館運営については、直営で行っている。その中で、5学級1講座があり、それらの一部を複数の団体で企画実践している。こちらの団体はその一部である。
- ・トップリーダー（市長）の関与はどのくらいのウエイトを占めたのか。
 - 市長の考えが大きかった。その他の市運営についても多分にある。特に、市民団体への声かけが大きかった。提案をする市民団体の力が最近高齢化のため弱くなっているのが不安材料である。

③ 男女共同参画推進フォーラム

～学びと実践の場づくり～

- ・退職後に妻の大変さが分かった。
- ・女性が名字を変えると、混乱するときもあるので、自由に選べるとよいと思う。
- ・男性の働く時間が長いと子どもと接する時間が少なくなり、落ち着きのない子どもたちに成長してしまうこともあるのでは。
- ・急に変えていくのは、なかなか大変なので、次世代に変えていってもらえるように伝えていきたい。
- ・残業しないで帰る。帰宅しやすい環境をつくっていく。
- ・中国では祖父母が子育てにかかわることは、当然のことで、日本は祖父母が子育てにかかわることが少ないのはなぜかと思う。
- ・日本はみんなが疲れている。

- ・地域の人たちに守ってもらう。地域の人たちとの関わりを大切にしていく。
- ・平等を意識していきたい。別姓はどうあるべきか。女性はどうあるべきか。を考えていきたい。
- ・女性が注目されているが、男性にも目を向けていかななくてはならないのではないかと。男女共同ですから。

④ 誰でも始められるふるさと還元！

茨城県の魅力を「人の魅力」を通して世界に発信！

- ・良い点は、茨城県の女性の良い点の紹介だけでなく、応援をしていること。また、紙で発信していること。課題は、若い人材の育成と紙がしっかりとしていることで、予算の面。
→ 紙の質にはこだわりがある。質を落とさないでやっていきたい。バックナンバーを大事にしてもらえるようなものをつくっていきたい。
- ・ビジネスの話が聞けてよかった。どうやってビジネスモデルに継続していくか、強い人材の補充が必要であろう。
- ・茨女は今女にかけているのではないかなと思う。部数の増加でなく、今できる段階で工夫が必要だと思う。第1号創刊時の覚悟が良かった。応援したい。
- ・人間の魅力発信に感動した。人次第で多くのものがよくなる。人間の魅力を探していきたい。茨城の人間の魅力の発信を忘れないで頑張ってください。
- ・タウン誌を見ると、広告が多く心配になる。以前、川井さんの「イノベーションを生涯学習でやってますか」の問いにドキッとした。生涯学習はイノベーションも考えなければいけないんだと思った。前向きな発表ありがとうございました。

会場D

① 地域活性化事業スポーツプロジェクト

～県西地区にJリーグチームを～

- ・ことを起こすことの大変さをよく理解している。これからもがんばってほしい。
- ・組織体制はどうなっているか。
→ 理事11名、理事長は互選。カテゴリー別に監督がいて育成。
- ・財政面はどうなっているか。
→ totoの支援を受けている。また、トリニタスはスポンサーが21社。また、地域の方々からの支援がある。
- ・境町がんばれ！

② 今こそ、地域に青少年の力を

～池ノ上青少年会館の取組から～

- ・運営について
→ 運営委員+各団体リーダーが主体的に行っている。

- ・その他のプログラムはあるか。
 - バンド：青少年会館主催はこの2つ
 - その他：ゴスペルが人気。これは青少年会館主催ではないが、やっている。
- ・ボランティアの協力を仰ぐ時、どのようにしているか。
 - 青少年会館の祭のボランティアをお願いしたい時、高校へ出向き 楽しい体験や心のつながりの話をして募る。忙しいがこれをやるとスムーズに協力をもらえる。
- ・ダンスフェスティバルを見に来ている人たちの反応はどうだったか。
 - 学校が参加するようになって、ダンスフェスティバルに出たいので、〇〇高校へ行きたいと考えるようになった。主婦層や、おやじ団体も参加するようになった。
- ・ボランティアの人の成長の様子は。
 - ボランティアの生徒が教員や幼稚園教諭を目指すようになった。

③ DAISY ってなんだろう？

～一人ひとりのニーズにあった学習支援のために～

- ・むずかしい取組だと感じた。ディスクレシアの検査方法が開発されるとよいだろう。
- ・ディスクレシアだと気付くポイントがありますか。
 - 一年生の教科書をなかなか読めないということで気付く。
- ・デイジー教科書について
 - 支援学級の先生がデイジー教科書を知っていて、それを紹介して、分かる場合が多い。
- ・デイジー教科書の作成について
 - やまゆりには読み手が5人いる。同じ学年は同じ人が担当している。
- ・デイジー教科書の作り手は広がっているのか。
 - 日本全国から参加してくれているが、まだまだ足りない。
- ・このような発表を聞くことがこの会を開催してよかったと思える一番のことだ。
- ・いろいろな人がいるのが社会なのだから、やまゆりのような活動がこれからも増えていくことが必要だと感じた。
- ・自戒の意味を込めてがんばろうと思った。“一人一人を大事にしていこう”

④ 街づくりと社会教育

- ・素晴らしい取組である。これからもがんばってほしい。
- ・駅前に図書館を作ったというが、そのポイントは。
 - 人を集めるための図書館。映画上映も行っている。また、会議室があり、それを使えるようにしている。
- ・株式会社の利益と社会教育の事業の住み分けはどうしているか。
 - 中心市街地のお店に行きやすいという目的のため、リピーターになるための目的で社会教育を行っている。

- ・まちづくり会社の収益はどうしているか。
 - 駐車場の運営をして利益を得ているところもあるが、楽市白河では、不動産収入（マンション）と楽蔵（店舗）が主な収入。年商は約1億円。
- ・那珂市の取組が似ている。祭を盛大に行っている。それを地域の子どもたちも自慢に思うようになってきた。また、高校生たちも子どもたちに教えたりできることを誇りに思えるようになってきた。

会場E

① つながる！ひろがる！たかまる！！いばらきASEイニシアチブ ～よりよい集団・組織づくりは、関係づくりからはじまる～

- ・ファシリテーターの意味は。
 - 介入せず、グループに必要な指導・助言を行う人ということ
- ・ファシリテーター養成研修の申込方法を知りたい。
 - 今年度、講座を開催予定。
- ・教員間でも取り入れたい。
- ・本があれば、紹介してほしい。
 - さしま少年自然の家にマニュアルがある。
- ・ASEのアクティビティをやってみたい。注意点はありますか。
 - みんなでやるのがASE。ダメならやり直す。みんなで相談する。自分たちで考えさせる。子どもたちの実態に応じて介入する。危険なときは、介入。ダメではなく「どうなるのかなあ」と考えさせる。
- ・アイスブレイクとASEは似ていると思うが、その違いは。
 - アイスブレイクは心をほぐす。ASEは振り返る。課題解決に向けての意見交換を行う。

② セルフディスカバリーキャンプ ～自然体験を通じてネット依存解消を図る支援プログラムについて～

- ・スマホがなく、不満が爆発することはなかったか。
 - センターがスマホを回収する。メンターの協力があるので、ひどい状況にはならない。
- ・スマホがなかったことに対するリバウンドはないのか。その後のネット時間の増減はあるか。
 - リバウンドについてははっきりしていない。毎年、報告者を出していて、アンケート等が発表されることで知る。
- ・参加者の依存はどのくらいまでの症状の人なのか。
 - 1日14～15時間やっている人。説明会時にもやっている人がいた。メンターのすすめがあつて親がいかせたいと行った人。
- ・メンターについて、どのように推薦されているのか。
 - 今回、10人。教育学部の人が多い。赤城からも2人、中央交流の家から2人。

- ・スタッフは、8泊すべていたのか。
 - 8泊する。一緒に関わる。所長は料理作りを担当。
- ・16名の参加者の意味は。男子だけだったが女子については。
 - マイクロバスで15人くらい。参加人数によって、メンターの数も変わる。男女については、「基本男子で」という方向で。今後の課題である。
- ・事前指導が大変なのでは。
 - 来るまでの過程はセンターでの対応となっていて、詳しくは不明。

③ 子供の防災力アップを目指して（平成28年度教育事業 チャレンジ・ジオキャンプ）
～地域の教育資源（環境や人）を活用し、地域との連携を図る事業展開～

- ・長いプログラム、体調不良等への対応は。
 - 体調不良は出る。装備品を変える。エスケープを可とする。緊急車両の準備をする。
- ・抽選はあるのか。
 - 山登りのため、抽選はない。
- ・スタッフについて
 - 5人の職員+ボランティア 夜の人数は少なくし、交替で行っている。
- ・エピソードについて
 - ハードなプログラムを終えるごとに子どもたちが団結。けんかも起こらないくらいハードだった。
- ・12泊13日の目的は防災力であるが、成果はどうであったか。
 - 安全性の知識、火山の安全性についての講義、水辺での救急救命。

④ 現代を生きる子どもたちの「将来」を育てる取り組みについて
～地域力向上事業「なすかしサマーグレートキャンプ」を事例として～

- ・「地域力向上事業」となっている。人材の活用を地域力向上に結びつけるためのステップアップ案について
 - 事業を継続することでノウハウの蓄積となり、つながりを広げていけたらと考える。
- ・参加費は。
 - 一人3万5千円（ほぼ食費）。事業費130万円（報告書作成を含む）。
- ・荒天時の対応は。
 - 雨でも実施できる内容を考えていた。
- ・縦走登山、学生ボランティアが足りない。励まし方など、運営の工夫、苦労は。
 - ボランティア集めに苦労した。（大学のテスト期間と重なったため）そこで、指導者養成講座の実践編として組み込んだ。
- ・100kmウォークを通して、子どもの変容は。
 - 「いきたくない。」といていた子が家でも頑張るようになった。また、登山が好きになっ

た子がいた。

- 地域力向上では、具体的にどんなことを目指しているのか。
→ 地域の団体とのつながりが出て、青少年にどのように関わればいいのかを知り、その団体が独自に取り組ができるようになったらいいと思う。
- リピーターはいるのか。
→ 前回参加者は除いた。
- 参加した子はできる子なのか。
→ 片付けもおぼつかない子もいたり、さまざま。三分の一は親が申込。
- 対応、指導の原則は。
→ できるだけ子どもたちでやる。その都度様子を見て、指導・支援をしていた。



8 メッセージボード集約結果

会場A

- ① こうすればできる！学校と地域をつなげるひと工夫
～地域連携重点推進モデル事業の実践から～
 - ・参加者の固定化が考えられますが、対策を取っていますか。

- ④ 元気な学校をつくる朝霞二小「学校応援団」
～楽しく 無理なく 身近なことから～
 - ・地域の力を学校が発揮させるすばらしい取り組みでした。すごい！

会場B

- ① 就学前教育における家庭教育支援について
～保健福祉部局，企業，地域と連携した家庭教育支援基盤の形成～
 - ・「脳」に視点を向けた家庭教育，具体的な例があり，よくわかった。
 - ・「家庭教育学級」あんな学習会だったら，みんな興味を持っただろうなと思いました。他の部局との連携は，ご苦労も多いかと思います。「広げる」「みんなに」という点では，良い機会に目をつけたと思います。

- ② 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の取組
 - ・楽しい2人の説明に癒やされました。その姿勢がみんなを幸せにするとおもいました。
 - ・県として連合会があり，支部として活動しているというところが，さすが栃木県進んでいるなと感じました。自分の地域に持ち帰りたいと思いました。

- ③ 家庭教育を支援する「親育を考える会」の取組
 - ・地域で子どもを支えるための活動，大変すばらしいと思いました。自分も親として地域の大人として何かできることがあるのではないかと考えさせられました。
 - ・「親がしっかりしないと」，そう意識させるすばらしい取り組みです。
 - ・母親だけを頼りにするのではなく，父親ももっと参加するべきだと思った。
 - ・すばらしい活動を教えていただきまして，ありがとうございました。今後も頑張ってください。

- ④ 地域での学びの場づくり
～家庭教育学級をはじめとする多様な取組～
 - ・まさに今進むべき方向性を実践している活動にただただ驚きしかありませんでした。正直な話，チャオのようなグループ団体がほしいなと思いました。今後進めていく上で，いろいろ相談したいと思いました。
 - ・国の補助事業を積極的に取り入れ，資金面で大きな進歩になります。受け入れる人，人のネットワークがしっかりできている＝活動しながら不足しているものを補っていく力がある＝これ

がすごいと思いました。

- ・長年にわたり活動が続けてこられていることに驚いております。近年、学生を教える立場となり、考えていることなのですが、核家族化、共働きにより、親の余裕（気持ちの面）や不安が、子供たちに悪い影響を与えているように感じています。心身ともに健全な子どもを育成するために、これからも活動が続けていってください。
- ・家庭訪問型、子育て支援は新しく良いと思いました。
- ・素晴らしい実践発表をありがとうございました。20年の歴史を感じました。時代の要請に応じた様々な活動をフットワーク軽く行っていることにただただ感心いたしました。
- ・母親だけでなく、父親に対しても、しっかりと講座を開かれていて、とても良いと思いました。
- ・活動の幅広さ、連携体制の充実が大変参考になりました。
- ・子育てを中心に、地域の課題にもアンテナを高くした取り組みが素晴らしいと思います。「子育て＝人とのつながり」をあらためて感じました。自分も教員である前に、双子のパパでもあるので、自分にできることを考えていきたいと思いました。
- ・母親だけ父親だけの印象を受けたので、夫婦そろったものはないのかと思いました。
- ・様々な活動が充実していてすごいです。
- ・これから子育てにかかわるかもしれないので、そういう人たち（まだ学生だとか）にも学習できる場がほしいと思いました。もっと活動が広がってほしいかもしれません。

会場C

① 茨城県立茨城東高等学校「We are 潤沼っ子！」のECO活動

～学び×地元×つながり×広がり～

- ・高校での取り組み、素晴らしいですね！生徒たちの様子をもっと知りたかったです。今後も広がり続けますように！
- ・コンソーシアムができあがってますね。新しい取り組みに期待します。
- ・茨城東高校素晴らしい！高校生のパワーをぜひ地域創生に生かしていただきたい。
- ・よくやった！君らはえらい！！

会場D

① 地域活性化事業スポーツプロジェクト

～県西地区にJリーグチームを～

- ・事業を発展させるための戦略が明確でした。先生の変わらぬ情熱、勉強させていただきました。ありがとうございました。

③ DAISY ってなんだろう？

～一人ひとりのニーズにあった学習支援のために～

- ・DAISY 教科書について、私も知り合いに話をしてみたいと思います。素晴らしい活動だと思います。まず大変かと思いますが頑張ってください。
- ・今日聞いたお話を10人には話してもっともっと広げていきます！

会場E

① つながる！ひろがる！たかまる！！ いばらきASEイニシアチブ

～よりよい集団・組織づくりは、関係づくりからはじまる～

- ・貴重なご講演をいただきありがとうございます。

1 引っ込み思案行動の得点推移が、事後よりもフォローアップの時の方が高いのは、どのような要因が考えられますか。

→ 統計上大きな差はなく、変化がないと見ています。ようするに有意差はないということです。

2 発表内で、「年齢や集団の質により効果に差が出る」とありましたが、具体的に実感されている例はありますか。

→ 円グラフの中のビックサマーキャンプでは小4～中学生が対象でした。小4の年代は、発達段階がまだ低い状態で、5年生以上にうまくとけ込めませんでした。その中で、ASEをやってみましたが、関係づくりに苦労していたようです。アドベンチャーキャンプでは、小5以上ということでビックサマーキャンプよりもASEでの効果が高かったです。(比較してみた結果)

③ 子供の防災力アップを目指して(平成28年度教育事業 チャレンジ・ジオキャンプ)

～地域の教育資源(環境や人)を活用し、地域との連携を図る事業展開～

- ・「環境が人をつくる」という部分で、子どもたちの成長が目に見えるようでした。
- ・「目標がしっかりしていること」「事業を当たり前だが、より良いものにしようとしていること」この2点を事業に関わった全ての人が共有しているからこそ、すばらしい事業になっていると感じました。
- ・参加した子どもたちが、学校に戻ったとき、まわりの子ども、先生に「経験」が伝われば最高ですね。そんな場を学校、家庭でつくっていかねば・・・

④ 現代を生きる子どもたちの「将来」を育てる取り組みについて

～地域力向上事業「なすかしサマーグレートキャンプ」を事例として～

- ・費用(個人負担)は、いくらなのでしょう。か。
→ 1人35,000円
- ・PRの方法は。
→ 近隣の小学校へのチラシ配布、HP
- ・20名定員で、56名の申し込みがあって、どのように抽選で20名にしたのか。(学年、男女、地区などある程度操作をしたのでしょうか)
→ 学年、男女である程度操作しました。
- ・柱となる「発進力」おもしろい！
facebookの活用、参加者(自分)、心配で仕方のない保護者、協力してくれている方、見られているみんな、みんなのためになっている。
- ・子どもたちの感想をみると、「百聞は一見にしかず、百見は一試にしかず」と感じました。体験、

経験は、やはりすごい！

- ・携帯電話（スマホ）の使用（持ち込み）は、可能にしていたのでしょうか。
→ 不可でした。情報の発信は所から行いました。



9 成果と課題

<成果>

- ・実践者の、実践者による、実践者のための交流会という基本理念のもと、各カテゴリ、発表テーマについて、現代的な課題や地域的な課題を重視し、発表団体等に依頼をしたが、参加者からは多数の先進的な事例に触れることができ有意義だったという意見が多かった。
- ・分科会のグループ協議は、様々な職種の方と交流することができるよい機会となった。
- ・昨年度に引き続き、発表者×発表者、発表者×参加者、参加者×参加者、等のつながりができ、本交流会をきっかけに、各地で新たな取り組みが始まったという意見を多数いただいた。
- ・継続参加したいという意見を多数いただけた。
- ・第1回大会に引き続き参加してくださった方が多数いらっしゃった。また、その方々が知り合いの方々を誘って参加者が増えてきている。回を重ねるごとに、認知度が増し、継続参加者が増えてきているのが大変ありがたい。
- ・発表テーマ（学校と地域の連携）等の関係から、学校関係者の参加が昨年よりも増えた。
- ・新たに高校生の発表を取り入れたが、良い刺激をたくさんいただいたという参加者の意見が多かった。今後も大学生や高校生との関わりを広げていきたい。
- ・明石先生の特別講演では、社会教育や体験活動の第一人者として、具体的な事例をもとに、分かりやすい内容で、社会教育の大切さが理解できたという感想を多数いただいた。
- ・クロージングトークセッションを実施したことで、主催者からの総括と会場とのやりとりができ、今後の見通しにつながった。
- ・昨年度に引き続いての開催なので、運営側の役割分担が明確となり、参加者に丁寧な対応ができた。
- ・夜の情報交換会が良かった。夜まで残る方は、本気度、熱意がある方が多く、有意義な情報交換を行うことができ、ネットワークも広がりやすい。

<課題>

- ・回を重ねるごとに、発表事例の数が増えていくことで、今後データベース化を図り、交流会後もネットワークづくりに生かせるようなシステムが必要である。
- ・開催時期や、2日間の日程について、参加者が参加しやすいような工夫が必要である。
- ・オープニングの内容についての検討が必要である。
- ・関係団体や他県との連携をさらに深め、関東で実施する意義を確認するとともに、継続開催に向けての推進体制を整えていく必要がある。
- ・社会教育委員や公民館職員など、社会教育専門職員の参加をさらに増やしていきたい。
- ・託児ボランティア等の配置などを取り入れ、子育て世代の方々の参加等、さらに幅広い参加者が集まるような工夫が必要である。
- ・宿泊施設の確保
- ・開催時期が重なるイベント情報の把握
- ・実行委員会に大学生を加えるなど、企画段階から若者の意見を取り入れる工夫が必要である。

参 考 资 料

関東近県生涯学習・第2回 社会教育実践研究交流会

大会テーマ：今こそ社会教育の底力を！

日時

平成28年10月15日(土)～16日(日)

会場

茨城大学

〒310-8512

茨城県水戸市文京 2-1-1



特別講演の講師は、

明石 要一

先生です！

参加費

無 料

対 象

どなたでも参加できます！

- ・スーツでの参加は、できるだけご遠慮ください！ノーネクタイ普段着での参加をお願いしております！
- ・名札・名刺の持参をおすすめします！



11月1日
11月1日は いばらき教育の日
11月は いばらき教育月間



大会の最新情報は facebook ページで！

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会



主催 茨城県教育委員会 茨城大学社会連携センター
茨城県生涯学習・社会教育研究会
主管 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会
後援 福島県教育委員会 栃木県教育委員会 群馬県教育委員会
埼玉県教育委員会 千葉県教育委員会 神奈川県教育委員会
国立青少年教育振興機構
茨城県社会教育委員連絡協議会 茨城県公民館連絡協議会
協力 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
茨城県教育庁社会教育主事会



昨年度、文部科学省からの委託を受け「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業」として、第1回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会を開催いたしました。のべ482名の参加者を迎え、盛大に開催することができました。関係者の皆様には心よりお礼を申し上げます。

現在、わが国の地域は、少子高齢化や人口減少によって過疎化が一段と進み、限界集落化から将来の地域消滅への不安が高まるなど、解決困難な多くの地域課題を抱えています。

そうした危機感を背景として、国でも「地方創生」や「一億総活躍社会」のスローガンのもとに、さまざまな政策や施策を展開しております。たとえば教育のフィールドでは、昨年度出された3つの中教審答申、中でも「地域学校協働答申」と、それを受けての「次世代の学校・地域創生プラン（馳プラン）」、さらに教育再生実行本部の提言等では、「ひとづくり」と「まちづくり」の循環、学校教育と社会教育のこれまで以上の連携・協働の必要性が繰り返し強調されております。これは、地域をめぐる危機が深まる中で、それだけ社会教育の果たすべき役割への期待が高まっていることの表れでもあると言えます。まさしく、社会教育関係者が待ち望んでいた出番であると思います。

そうした今、重要なことは、私達がそれぞれの地域で個々に実践を展開することだけでよしとするのではなく、県域を越えた幅広いネットワークを構築し、情報を交換し合い、学び合い、手を取り合って連携・連帯を強め、総力で地域課題の解決に取り組むことであると思われます。今、中国・四国・九州地区で続いてきた実践研究交流会が全国に広がりを見せており、関東においても関係団体・機関等の協力により、本大会の継続開催に向けた準備が進んでいるところです。

今大会は、20の事例発表と情報交換会、さらに青少年教育・社会教育の第一人者としてご活躍の国立青少年教育振興機構の明石要一センター長（千葉敬愛短期大学学長）による講演会と盛りだくさんの内容を予定しております。特に明石先生は、先日のテレビ・新聞等のニュースにおいて、家庭の教育費支出や親がしつけに熱心かどうか、日本の青少年の自己肯定感に強い影響を及ぼすようになってきていること、つまり、経済格差が学力だけでなく青少年の気持ちの格差にもつながるおそれがあると調査に基づいて指摘し、具体的な提案をしておられます。ご期待頂きたいと思います。

この集まりを地域でがんばる大勢の仲間達の有意義な交流の場にてできるよう、たくさんの方々のご参加を心からお待ちしております。

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員長
茨城大学名誉教授 菊池 龍三郎

第1日目
10/15(土)

オープニング13:00～ (教育学部棟)

事例発表 13:50～

(教育学部各教室)

① 13:50 ～ 14:35
② 14:45 ～ 15:30
③ 15:50 ～ 16:35
④ 16:45 ～ 17:30

【学校・家庭・地域の連携】

※ 発表テーマ、発表者等については、変更になる場合があります。

		発表テーマ	発表者
会場 A	①	こうすればできる！学校と地域をつなげるひと工夫 ～地域連携重点推進モデル事業の実践から～	栃木 市貝町立市貝小学校 教諭 大根田 裕一
	②	地域とともに伸びる学校をめざして ～学校から地域へ はじめの一步～	茨城 笠間市立南小学校 教諭 永田 仁一
	③	学校・家庭・地域の連携協力による学力向上推進事業 ～地域運営委員会による「学力アップ大作戦」～	群馬 高崎市教育委員会学校教育課 指導主事 横谷 隆
	④	元気な学校をつくる朝霞二小「学校応援団」 ～楽しく 無理なく 身近なことから～	埼玉 朝霞市立朝霞第二小学校 校長 加藤 美幸

【家庭教育支援】

		発表テーマ	発表者
会場 B	①	地域との連携協働による家庭教育支援について ～坂東市の取組を通して～	茨城 坂東市教育委員会生涯学習課 社会教育主事 向田 伸一
	②	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の取組	栃木 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会 会長 伊吹 桂子 副会長 松岡 あゆみ
	③	家庭教育を支援する「親育を考える会」の取組	千葉 親育を考える会 代表 花香 健司
	④	地域での学びの場づくり ～家庭教育学級をはじめとする多様な取組～	埼玉 NPO 法人子育てサポーター・チャオ 代表 近澤 恵美子

【地域課題の解決に向けた取組①】

発表テーマ		発表者
会場C	① 茨城県立茨城東高等学校「We are 涸沼っ子！」のECO活動 ～学び×地元×つながり×広がり～	茨城 茨城県立茨城東高等学校生徒会長 三森洸喜 教諭 郡司美知子 新堀洋子 佐藤美波
	② 独自の民営化制度に基づく公民館市民カレッジの受託について	千葉 我孫子市公民館 館長 丸山 正晃 NPO 法人ふれあい塾あびこ 理事長 多田 正志
	③ 男女共同参画推進フォーラム ～学びと実践の場づくり～	埼玉 国立女性教育会館事業課 専門職員 佐伯 加寿美
	④ 誰でも始められるふるさと還元！ 茨城県の魅力を「人の魅力」を通して世界に発信！	専修 茨城 茨城県出身の女性を応援するマガジン サイト・フリーペーパー茨女 代表 川井 真裕美

【地域課題の解決に向けた取組②】

発表テーマ		発表者
会場D	① 地域活性化事業スポーツプロジェクト ～県西地区にJリーグチームを～	茨城 特定非営利活動法人 境スポーツクラブ 理事長 倉持 貢
	② 今こそ、地域に青少年の力を ～池ノ上青少年会館の取組から～	東京 世田谷区教育委員会事務局 社会教育主事 吉田 周平
	③ DAISY ってなんだろう？ ～一人ひとりのニーズにあった学習支援のために～	神奈川 特定非営利活動法人やまゆり 副理事長 内田 昌子 認定 NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会 理事 手塚 明美
	④ 街づくりと社会教育	福島 株式会社 楽市白河 長倉 智和

【青少年教育】

発表テーマ		発表者
会場E	① つながる！ひろがる！たかまる！！ いばらきASEイニシアチブ ～よりよい集団・組織づくりは、関係づくりからはじまる～	茨城 茨城県立さしま少年自然の家 社会教育主事 山崎 英男
	② セルフディスカバリーキャンプ ～自然体験を通じてネット依存解消を図る支援プログラムについて～	群馬 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 根本 純一
	③ 地域の教育資源を活用した事業展開事例について ～チャレンジジオキャンプ，こどもの未来～	福島 国立磐梯青少年交流の家 企画指導専門職 大高 靖行
	④ 地域力を生かした青少年教育への取組 ～なすかしサマーグレートキャンプ～	福島 国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職 吉田 淳也 志賀 亮太

情報交換会&第2回大会交流会 18:15～ (茨城大学生協食堂)

第2日目
10/16(日)

昼食等については、第1日目は、大学生協がオープンしておりますので、御利用ください。(11:00～13:30) 当日は混雑が予想されますので、ご了承ください。

時間	内容	会場
9:30～11:00	特別講演 『社会教育に問う！今，社会教育にできることとは』 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター長 千葉敬愛短期大学 学長 明石 要一 先生	教育学部棟
11:00～11:30	全体会 (シェアリング：関係者間での出会いと対話)	

クローキングトークセッション 11:30～ (教育学部棟)

コーディネーター 茨城大学教育学部特任准教授 長谷川 幸介
登壇者 茨城大学名誉教授 菊池 龍三郎
NPO 法人ひと・まちなっとわーく理事長 池田 馨

※ 日程や会場(教室等)については、当日変更になることもございますので、ご了承ください。

FAX 送信先【茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当宛】

029-301-5339

第2回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会 【参加申込書】

※ 個人情報とは、本大会に関する事以外での目的では使用いたしません。また、当日の様子（写真、動画等）につきましても、ホームページ（SNSを含む）や報告書等で使用することをご了承ください。

ふりがな				性別
氏名				男・女
所属		役職		
連絡先	電話：			
	電子メール：			

大会の出欠等 ※ 希望する事項に○をつけてください。

第1日目10月15日(土)	大学生協の利用(昼食)	希望あり・希望なし					
		参加・不参加					
	事例発表	①13:50~14:35	会場A	B	C	D	E
		②14:45~15:30	会場A	B	C	D	E
③15:50~16:35		会場A	B	C	D	E	
④16:45~17:30		会場A	B	C	D	E	
※ 大学周辺には、飲食店等が少ないので、ご承知ください。	情報交換会	参加・不参加 ※ 情報交換会は、会費制です。【会費：3,000円】					
第2日目10月16日(日)	特別講演	参加・不参加					

※ チラシ等のブース出店を希望する団体については、個別にご連絡ください。

※ 宿泊については、個人で御対応ください。

会場案内

申込方法



- 申込締切 平成28年9月30日(金)
- 参加方法 参加申込書を送付してください。(メール・FAX)
- 申込み・問合せ先
茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当
〒310-8588 水戸市笠原町978番6
TEL 029-301-5318
FAX 029-301-5339
電子メール shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp

茨城大学水戸キャンパス (〒310-8512 水戸市文京2-1-1)
JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行き(栄町経由)」に乗車、「茨大前」で下車。(バス乗車時間は約30分) ※できるだけ公共交通機関を御利用ください。

第2回大会 事例発表者一覧

	発表テーマ		発表者
学校・家庭・地域の連携(会場A)	①	こうすればできる！学校と地域をつなげるひと工夫 ～地域連携重点推進モデル事業の実践から～	栃木 市貝町立市貝小学校 教諭 大根田 裕一
	②	地域とともに伸びる学校をめざして ～学校から地域へ はじめの一歩～	茨城 笠間市立南小学校 教諭 永田 仁一
	③	学校・家庭・地域の連携協力による学力向上推進事業 ～地域運営委員会による「学力アップ大作戦」～	群馬 高崎市教育委員会学校教育課 指導主事 横谷 隆
	④	元気な学校をつくる朝霞二小「学校応援団」 ～楽しく 無理なく 身近なことから～	埼玉 朝霞市立朝霞第二小学校 校長 加藤 美幸
家庭教育支援(会場B)	①	就学前教育における家庭教育支援について ～保健福祉部局, 企業, 地域と連携した家庭教育支援基盤 の形成～	茨城 坂東市教育委員会生涯学習課 社会教育主事 向田 伸一
	②	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の取組	栃木 栃木県家庭教育オピニオンリーダー 連合会 会長 伊吹 桂子 副会長 松岡 あゆみ
	③	家庭教育を支援する「親育を考える会」の取組	千葉 親育を考える会 代表 花香 健司 小川 春利
	④	地域での学びの場づくり ～家庭教育学級をはじめとする多様な取組～	埼玉 NPO 法人子育てサポーター・チャオ 代表 近澤 恵美子
地域課題の解決に向けた取組(会場C)	①	茨城県立茨城東高等学校「We are 涸沼っ子！」のECO活動 ～学び×地元×つながり×広がり～	茨城 茨城県立茨城東高等学校生徒会長 三森洸喜 教諭 郡司美知子 新堀洋子 佐藤美波
	②	独自の民営化制度に基づく公民館市民カレッジの受託に ついて	千葉 我孫子市公民館 館長 丸山 正晃 NPO 法人ふれあい塾あびこ 理事長 多田 正志
	③	男女共同参画推進フォーラム ～学びと実践の場づくり～	埼玉 国立女性教育会館事業課 専門職員 佐伯 加寿美
	④	誰でも始められるふるさと還元！ 茨城県の魅力を「人の魅力」を通して世界に発信！	東京/茨城 茨城県出身の女性を応援するマガジ ンサイト・フリーペーパー茨女 代表 川井 真裕美

	発表テーマ		発表者
地域課題の解決に向けた取組(会場D)	①	地域活性化事業スポーツプロジェクト ～県西地区にJリーグチームを～	茨城 特定非営利活動法人 境スポーツクラブ 理事長 倉持 貢 理事 小川 裕貴
	②	今こそ、地域に青少年の力を ～池ノ上青少年会館の取組から～	東京 世田谷区教育委員会事務局 社会教育主事 吉田 周平
	③	DAISY ってなんだろう？ ～一人ひとりのニーズにあった学習支援のために～	神奈川 特定非営利活動法人やまゆり 副理事長 内田 昌子 認定 NPO 法人藤沢市市民活動推進連 絡会 理事 手塚 明美
	④	街づくりと社会教育	福島 株式会社 楽市白河 長倉 智和
青少年教育(会場E)	①	つながる！ひろがる！たかまる!! いばらきASEイニシ アチブ ～よりよい集団・組織づくりは、関係づくりからはじまる～	茨城 茨城県立さしま少年自然の家 社会教育主事 山崎 英男
	②	セルフディスカバリーキャンプ ～自然体験を通じてネット依存解消を図る支援プログラム について～	群馬 国立赤城青少年交流の家 企画指導専門職 根本 純一
	③	子供の防災力アップを目指して(平成28年度教育事業 チ ャレンジ・ジオキャンプ) ～地域の教育資源(環境や人)を活用し、地域との連携を 図る事業展開～	福島 国立磐梯青少年交流の家 企画指導専門職 大高 靖行
	④	現代を生きる子どもたちの「将来」を育てる取り組みにつ いて ～地域力向上事業「なすかしサマーグレートキャンプ」を 事例として～	福島 国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職 吉田 淳也 志賀 亮太

第2回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会実行委員名簿

No	役職等	氏名	組織・職名	備考	
1	委員長	菊池 龍三郎	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 (茨城大学名誉教授)		
2	副委員長	池田 馨	茨城県生涯学習・社会教育研究会 副会長		
3		長谷川 幸介	茨城大学 教育学部 特任准教授 茨城県生涯学習・社会教育研究会 副会長		
4		廣瀬 忠	茨城県教育庁総務企画部 生涯学習課長	(総務担当)	
5	委員	大学関係	高橋 喜一	茨城大学 社会連携課長	
6			三浦 東	茨城大学 社会連携センター係長	
7		学識経験者	木村 競	茨城大学 教育学部 教授	
8			坂井 知志	常磐大学 コミュニティ振興学部 教授	
9			伊藤真木子	常磐大学 コミュニティ振興学部 助教	
10		社会教育関係	大月 光司	茨城県生涯学習・社会教育研究会 運営委員	
11			栗田 将夫	茨城県生涯学習・社会教育研究会 運営委員	
12			儘田 茂樹	茨城県社会教育委員連絡協議会 会長	
13			富山 かなえ	筑波総研株式会社	
14		県関係	成島 崇之	鹿行教育事務所学校教育課 主任社会教育主事	
15			佐々木英治	水戸教育事務所学校教育課 主任社会教育主事	
16			熊谷 智仁	水戸生涯学習センター 企画振興課長	
17		市町村関係	海老原 誠	笠間市立南小学校 校長	
18			久保田 将彦	日立市教育委員会 派遣社会教育主事 (派遣社会教育主事代表)	
19		アドバイザー	市川 重彦	国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター 専門調査員	

監事	滝 正利	滝労務管理事務所 特定社会保険労務士	
監事	市村 志保	茨城県教育庁企画総務部生涯学習課 総括課長補佐	

<事務局>

事務局長	市村 英二	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当課長補佐	
事務局	鈴木 昭博	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 社会教育主事	
事務局	高橋 奈菜子	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 管理担当主事	
事務局	佐藤 孝弘	茨城県生涯学習・社会教育研究会 事務局員	
事務局	軍司 幹光	茨城県生涯学習・社会教育研究会 事務局員	
事務局	長谷川 馨	鉾田市立野友小学校 校長	

第2回大会 事例発表運営スタッフ

茨城県水戸教育事務所	主任社会教育主事	佐々木 英治
茨城県水戸教育事務所	主 査	佐藤 和彦
茨城県水戸教育事務所	主 査	中島 康弘
茨城県県北教育事務所	主任社会教育主事	阿部 裕美
茨城県鹿行教育事務所	主任社会教育主事	成島 崇之
茨城県鹿行教育事務所	主 査	大山 映子
茨城県県南教育事務所	主任社会教育主事	藤岡 賢治
茨城県県西教育事務所	主任社会教育主事	蛭原 高司
茨城県県西教育事務所	主 査	栃木 恵津子
水戸市教育委員会	社会教育主事	宮田 英和
笠間市教育委員会	社会教育主事	根本 拓
常陸大宮市教育委員会	社会教育主事	山田 聡
那珂市教育委員会	社会教育主事	海老根 健治
茨城町教育委員会	社会教育主事	坂本 馨
大洗町教育委員会	社会教育主事	大森 剛
東海村教育委員会	社会教育主事	吉成 大秀
日立市教育委員会	社会教育主事	久保田 将彦
鹿嶋市教育委員会	社会教育主事	箕輪 直
潮来市教育委員会	社会教育主事	根本 聡美
神栖市教育委員会	社会教育主事	飯島 順
行方市教育委員会	社会教育主事	木下 健
鉾田市教育委員会	社会教育主事	筒井 直子
土浦市教育委員会	社会教育主事	和田 聡史
石岡市教育委員会	社会教育主事	川上 和正
龍ヶ崎市教育委員会	社会教育主事	木村 忠夫
牛久市教育委員会	社会教育主事	仲澤 潤
つくば市教育委員会	社会教育主事	山口 健次
稲敷市教育委員会	社会教育主事	神吉 哲寛
つくばみらい市教育委員会	社会教育主事	荒井 克彦
阿見町教育委員会	社会教育主事	大出 晃司
結城市教育委員会	社会教育主事	須藤 勝繁
下妻市教育委員会	社会教育主事	鈴木 勝久
筑西市教育委員会	社会教育主事	樋山 輝久
常総市教育委員会	社会教育主事	木村 弘幸
境町教育委員会	社会教育主事	竹村 靖
茨城県水戸生涯学習センター	企画振興課長	熊谷 智仁
茨城県水戸生涯学習センター	社会教育主事	篠山 正史
茨城県水戸生涯学習センター	社会教育主事	関 正貴
茨城県水戸生涯学習センター	社会教育主事	渡邊 和重

(17)

第3社会

A版

第三種郵便物認可

家庭教育支援や 青少年教育学ぶ

水戸で研究交流会

学びを通して地域活性化策を考える「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」が15日、水戸市文京2丁目の茨城大で始まっ



生涯学習や社会教育の先進事例などを学んだ研究会＝水戸市文京

た。初日は関東と周辺の教育関係者や大学生、市民団体が参加して、家庭教育支援や青少年教育などの先進事例を学んだ。

同研究交流会は県教委と茨城大、県生涯学習・社会教育研究会が主催し、各地域で生涯学習・社会教育に携わる教員や学生、NPO職員らのスキルアップ、ノウハウ習得を狙いに開かれ、今年で2回目。

学校と家庭、地域の連携や家庭教育支援、地域課題の解決に向けた取り組み、青少年教育など、各テーマについて各地域の実践事例などを報告したほか、参加者同士で意見を交換して理解を深めた。

本県からは笠間市立南小、坂東市教委、県立茨城

東高、NPO法人境スポーツクラブなどが参加。坂東市教委は子どもの健全育成を目指し、保健福祉関係や企業、地域などと連携した就学前の家庭教育支援の取

り組み、茨城東高は地域と協力した瀬沼周辺の環境保全活動について報告した。最終日の16日は、千葉敬愛短大の明石要一学長の講演などが予定されている。

関東で生涯学習めぐる交流会開く



開会式の会場をさまざまな立場の参加者が埋めた(15日)

立場も年齢も多様な人たちが生涯学習と社会教育についてそれぞれの活動を報告し、意見を述べ合うなどする「関東近県生涯学習・社会教育実践研究会」は15、16の両日、茨城大学(水戸市)で開かれ、遠くは福岡県や福島県から2日間で延べ500人余りが集まった。昨年度に続き2回目。全小・中学校で住民が中心となって児童・生徒の学習を支援している高崎市の活動などが注目を集めた。

この会合は茨城県教委、茨城大学社会連携センターなどが主催。今年で35回を数える中国・四国・九州地区の同様の会合を参考に昨年度から始まった。今回は、教職員、教委事務局職員をはじめ、大学生、自営業者、NPO(非営利法人)や青少年教育施設の職員などが参加した。

実践報告は5会場に分かれて実施。このうち「学校・家庭・地域の連携」を主題とした会場では、高崎市教委の学習支援事業の他、栃木県教委が進めている「地域連携教員」の活動、埼玉県教委が国の「学校支援地域本部事業」に先駆けて導入した住民組織の動向などについて報告があった。

実践者による報告に続き、報告を聞いていた人同士が数人ずつ集まり、感想や意見を述べ合った。勤務先の学校で抱えている課題について助言するなどの姿が見られた。

開会に当たって主催者としてあいさつした茨城大学の菊池龍三郎名誉教授は「地方創生という課題を掛け声倒れにしないためにネットワークが必要だ」などと、今回の会合への期待を語った。来年度には第3回会合を開く予定だ。

(次号以降で詳報)

茨城東高が涸沼エコ活動

水質調査や間伐実習

汚染防止のたわしPR

県立茨城東高校(茨城町小幡、鈴木浩二校長)は、生徒と教職員による組織「We are 涸沼っ子」を昨年発足させ、涸沼に関するエコ活動を進めている。10月には、学校設定科目「涸沼と自然」を選択した3年生13人が学校保有林で間伐実習に臨んだほか、茨城大学水戸キャンパスで開かれた関東近県生涯学習・社会教育実践研究会で活動を発表した。「涸沼をきれいにするには、木や土を守ることも大事だ」と捉え、里山保全や伝統料理復活運動に関わるなど活動の幅を広げている。



学校保有林で行われた間伐実習＝茨城町小幡

同校は、職業観を養う「キャリア教育」として、自然環境学習を採用。1年生は涸沼の水質調査や生態観察、2年生で間伐材を使った「Myはし」作りなどを取り入れた。

その上、涸沼がラムサール条約に登録されたのを機に、涸沼を守る環境活動をしようと、生徒と教職員全員がメンバーとなって「We are 涸沼っ子！」を立ち上げた。家庭排水汚染を防ぐ「アクリルたわし」普及活動や、学校保有林の整備を開始した。保有林再生に取り組んでいるのが、3年生のキャリア

教育「涸沼と自然」を選択した生徒たちで、昨年、間伐材を使って林に通じる階段を整備。10月20日には、間伐実習を実施した。

地元の里山保全グループの協力で行った実習では、木を切り倒す際に生徒もロープを引いて手伝った。間伐材を粉碎し、固めて燃料に使うペレット作りを見学。「間伐材がエネルギーとして利用されれば、地産地消が進み、地域が活性化する」という説明を受けた。

一方、10月15日に茨城大で開かれた社会教育実践研究会(具教委など主催)では、生徒会長の三森洗喜君がエコ活動全般について発表。

水質汚染の主な原因の家庭排水対策として、少ない

洗剤でも食器洗いができる「アクリルたわし」を普及しようと、茨城町をはじめつくば市、小美玉市などでのイベント時にワークショップを実施したほか、NGOの協力で同たわしをフィリピンの高校と市役所にも届けたことを紹介した。

さらに、茨城大学と共同で郷土料理・つと豆腐の復活プロジェクトにも関わり始めたことを報告した。

三森君は「涸沼っ子のECO(エコ)活動を、En trance(自然環境について学ぶ)、Connection(地域や人とつながる)Output(活動を広める)し、私たちに伝わる伝統や郷土文化を守り伝えていきたい」と力を込めた。(武藤秀明)

地域を支える

PTA

社会教育

民生・児童委員

地方議会

群馬県高崎市教委が市立の小・中学校を会場に、児童・生徒の保護者、住民、教職員が連携して放課後や週末に児童・生徒の学習を支援する「学力アップ大作戦」が3年目を迎えた。子どもたちが充実した時間が過ごせるようにしよ

うと文科省の旗振りで始まった「放課後子供教室」の一環ではあるが、市教委が教材を用意するなどして、児童・生徒それぞれの習熟度に応じた学習支援に焦点を当てたところが特徴。移住促進策として期待する声も上がる。

住民、保護者の力で「補習」

平成26年度の開始から3年目を迎えた今年6月の市議会定例会。議場に立った議員は、「首都圏在住の人たちが移住する際、教育環境も判断基準の一つになっているという。高崎の子どもの学力向上は、大きく見れば移住促進につながる」と話した。

高崎市には市立の小学校が58校、中学校が25校ある。学区ごとに運営委員会を設け、この事業を進めてきた。名称は運営委員会に加わっている住民らの話し合いで決めている。

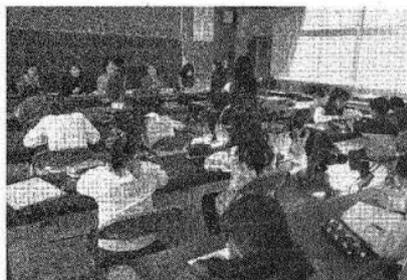
学校名をかぶせた「〇〇寺子屋」をはじめ「パワーアップ教室」「やる気塾」といった具合に。平日の放課後を中心に、週末や夏休み期間中など、学区の事情に合わせて開催日を決めている。

高校生も支える側にも会場は各学校の教室だが、学習支援は住民らボランティアの役割となる。大学生をはじめ、さまざまな立場の人たちが高崎市の子どもたちの学びを支える。高校生がボランティアとして加わる地域もある。

市教委が準備したプリント教材を使って算数・数学の学習を支援することが中心。加えて学区ごとに工夫を加え、昨年度からは、英語を支援内容に加える中学校も出始めた。

移住促進に期待の声

習熟度に応じたきめ細かい支援



ボランティアが付き添う中、校内で勉強に励む子どもたち

各学区の運営委員会は「10人以上」「3人は教職員」となっている。教職員以外は、住民や保護者が加わる。この運営委員会が開催日程や実施時間などを決めていく。

ボランティアの申し込み受け付けは高崎市教委が担当する。平成の大合併を経て県内で最も人口が多い市町村となった高崎市。それぞれの学区が

群馬県高崎市

抱えた事情はさらに多様化した。ボランティアの確保が円滑な学区ばかりとは限らない。ボランティアには一定の謝礼を出す。少し時間をかけて支援に向いてもらうこともある。

文科省の「放課後子供教室」は10年余り前に始まった。子どもたちの学習を支援することもあるが、自由に遊ぶ子どもたちを危険から守ろうと住

民らが見守ったり、住民らが一緒に遊んだりといった取り組みも多い。スポーツ、工作などを取り入れることもある。対象は主に小学生としてきた。高崎市も実施している。

学校評価の意見反映

他方、児童・生徒の保護者による学校評価で「テストで平均点以下の生徒には、授業日以外に

公の機関によって補習をしてほしい」「やる気のある生徒だけでも、テスト前後に補習をしてもいいか」といった声が上がっている。この事業は、高崎市教委指導主事の横谷隆さんが10月15日に社会教育関連の催しで発表した。こうした経緯、現状について資料を交えて語った。

発表を聞いた千葉県内の中学校教員は、「学級担任は誰が学習会に参加しているか把握できるのか」「高校受験を控えた時期に、発達上の特性がある生徒などによるトラブルが起こったらどうするのか」と質問した。横谷さんは、「(参加したかどうかは)コーディネーターが名簿で確認している」「生徒指導上、心配になることがある。教員に協力を要請し、会場に来てもらうことがあり」と話した。

この催しは、茨城県教委などが主催の「関東近県生涯学習・社会教育実践研究会」だ。来年度も開催の予定だ。

から

個性や特性を持った人々が利用している。内

関東から全国へ！ 社会教育の風を吹かせよう！

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課



講演する明石要一先生

茨城県

（開催の経緯）

福岡では、すでに35回も実践交流会が開催されている。香取・中国・四国・九州地区生涯教育実践研究会が主催している。



オープニングの様子

されている。関東においても、社会教育や生涯学習に関わる実践者が交流できるような大会が開催できないものか、これが交流会開催の第一歩である。

茨城県において、各地域で実践している社会教育関係者の集う交流会を開催するとは、「関東もしくは東日本において社会教育実践者が集い交流できる場」となることである。という使命を持って中国・四国・九州地区交流会をお手本に開催準備を進めてきた。実際に事務局が福岡での交流会に参加し、現場の熱を直接感じ、その熱をいかに茨城大生にかける



茨城東高校の事例発表

か、実行委員会、協議を続けてきた。その結果、主催は、茨城県教育委員会、茨城大学、茨城県生涯学習センター、茨城県生涯学習・社会教育研究会、主催として関東生涯学習・社会教育実践研究会、社会教育実践研究会、会実行委員会が企画運営を進め、茨城大学を会場

（開催内容）

本交流会の主な内容は、1日目に事例発表、情報交換会、2日目に講演会の3本立て。事例発表は、20名、関東及び福島県からの1都7県から先進的な実践について発表していた。5会場、4クール実施。1クールの内容は、事例発表、20分、協議5分の15分間。事例発表では、それぞれ成功例だけでなく現在抱えている課題についても報告した。その課題について、協議の最初の10分は小グループで意見交換した。2日目の講演では、実践者の視所となるような熱い調子を定めた。昨年度は、福岡の交流会の立役者でもある三浦清一郎先生をお招きし、九州・四国・中国地区交流会の熱を吹き込んでいた。今年度は、体験活動の第一人者でもある明石要一先生をお招きし、「社会教育に問う！社会教育にできること



グループ協議での真剣な表情

（参加者からの声）

参加者からは、「参加者の意欲が高く、素晴らしい大会だった。」「実践するための熱の大切さをあらためて見なおす機会となった。」「長く続けてください！」「たくさんの感想をいただいた。また、参加した大学生からは、「た話し合うだけでなく、問題を解決策を考えるのがとても楽しかった。」「自分が考えた案も採択としてあげられたときはすばらしいかった。」「など、若者目線での意見もいただいた。

（今後の見通し）

昨年度末にまとめられた中教育高中を受けた「次世代の学校・地域」創生プランでは、地方創生に向けた学校と地域の連携・協働の在り方が取り上げられた。また、8月に取りまとめられた「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」では、「社会に開かれた教育課程」の実現が目標となり、学校教育においても社会教育との連携が重要テーマとなっている。また、社会教育にとって追い風となっている。社会教育実践者にとってもこの勝利である。今回第2回大会の開催となり、中国・四国・九州地区交流会から比べれば、実践者の実践者によっていくつかがあっても、やっとな歩み出した。実践者のための交流のスタック一層努力して

を、残りの15分は会場参加者全員で課題解決に向けての協議を行った。各会場の主な進行は、平成26年度から県内市町村に派遣している教員補員の社会教育主事（県内4市町村のうち、平成26年度17名、平成27年度17名、平成28年度17名）を平成28年度まで、どちらかと言えば、会場全体の学びを促進するファシリテーターとしての役割を担う。さらに、茨城大学生協において情報交換会を開催し、昼に交流ができた方々同士の交流したり、時間が足りなく聞けなかったことを聞いた。こういった時間を設定した。若者目線での意見もいただいた。

州地区交流会から比べれば、実践者の実践者によっていくつかがあっても、やっとな歩み出した。実践者のための交流のスタック一層努力して

facebook ページでつながろう！



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会のページは
QR コードからどうぞ！



関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会
第2回大会 実行委員会

事務局 茨城県教育庁総務企画部生涯学習課振興担当
〒310-8588 茨城県水戸市笠原町 978 番6
Email shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp
TEL 029-301-5318 FAX029-301-5339